

NETIMPRESS *avant*

NETIMPRESS *avant*

操作マニュアル

株式会社DTSインサイト

改訂履歴

版	発行日付	変更内容
第 1 版	2019.03.15	新規発行
第 2 版	2019.06.26	アンサーバック機能追加
第 3 版	2019.11.29	誤記修正
第 4 版	2020.09.04	エラーコード追加
第 5 版	2022.02.15	VCC 出力機能追加
第 6 版	2022.12.29	一部説明文変更

< ご注意 >

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容については、改良のため予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容について、ご不審な点やお気づきの点がありましたら、ご連絡ください。
- (4) 本製品を運用した結果の内容の影響については、(3)項にかかわらず、責任を負いかねますのでご了承ください。
- (5) 本書に記載されている会社名・製品名は、各社の登録商標、または商標です。

はじめに

「NETIMPRESS avant 操作マニュアル」(以下、本マニュアル)は、AFX100 のスタンドアロン時の操作方法を記載しています。PC を使用し操作したい場合は「SWX600 ソフトウェアマニュアル」をご参照ください。

-  本マニュアルにおける「プログラミング」とは、対象マイコン内蔵フラッシュメモリ、または対象マイコンに接続されている外部フラッシュメモリへのデータ書き込みのことをさしています。

本ガイドで使用しているアイコンには、以下の意味があります。

-  特に重要な情報を記載しています。操作する際は十分に注意してください。
-  操作を進める上で役に立つ情報やアドバイスなどの補足事項を記載しています。
-  本マニュアルのほかのページやほかのマニュアルなどの参照情報を記載しています。

本機を安全にご使用いただくために

本機を正しく安全に使用していただくため、本機の操作にあたっては下記の安全事項を必ずお守りください。尚、これらの注意に反したご使用により生じた損害については、当社は責任と保証を負いかねます。

■本機には、安全に使用していただくための次のようなシンボルマークを使用しています。

	人体及び機器に危険があることを示すとともに、ユーザーマニュアルを参照する必要があります。あることを示すシンボルマークです。
	保護接地端子を示します。この端子が本体にあるときは、機器を操作する前に必ず、グランドと接続してください。
警告	取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険があるとき、それを避けるための注意事項が記載されています。
注意	取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うか、または物的損害のみが発生する危険があるときに、それを避けるための注意事項が記載されています。

■感電事故など取扱者の生命や身体に危険を及ぼす恐れや機器損傷の恐れがあるため、次の事項を必ずお守りください。



・ガス中での使用

可燃性、爆発性のガス又は蒸気のある場所では、本機を動作させないでください。

そのような環境下で本機を使用することは大変危険です。

・使用環境

本機は屋内でかつ、高度 2000m 以下で使用してください。

許容電圧範囲、電源周波数については定格電圧± 10 %、50/60 Hz±2 Hz を超えないでください。

過電圧カテゴリーII、汚損度 2 の環境下での使用を想定しております。

電源コンセントの近くに配置し、AC コンセントのプラグに手が届くようにして、

容易に電源断が行えるようにしてください。

・電源

感電や災害防止のため、供給側の電圧が本機の定格電源電圧に合っているか必ず確認した上で、接続してください。また AC ケーブルは本機に同梱された専用ケーブルを使用してください。

破損している AC ケーブルは使用しないでください。

・ケースの取り外し

サービスマン以外は、ケースを外さないでください。本機内には、高電圧の個所があります。

・異常が起きた場合

万一、煙がでている、焦げ臭いにおいがする等の異常が起きた場合には、本体とターゲットを抜いて本体の電源を切り、弊社サポート部までご連絡ください。

■本機は、精密電子部品で構成された電子機器です。本機性能を最大限に発揮し、トラブルを予防するために、以下の注意事項を必ず守ってください。

注 意

・電源投入順序

ホストコンピュータ、本機、ターゲットシステムの電源の投入および切断は、それぞれの供給方法での順序を守って行ってください。

特に、本機とターゲットシステム間の電源の投入順序及び切断順序を誤りますと、ターゲットシステムと本機に重大な損害を与える恐れがありますので、必ず守ってください。

電源投入

- ① ホストコンピュータ
- ② 本機
- ③ ターゲットシステム
- ④

電源切断

- ① ターゲットシステム
- ② 本機
- ③ ホストコンピュータ

・プローブとコネクタの接続

各プローブとケーブルの形状は、本機と接続する場合に誤った向きに入らないようになっています。接続時に異常を感じた場合は、無理な力を加えずに、方向・位置を確認してください。

・機器の解体

本機内部では微細パターンのプリント板を使用しておりますので、ネジを開けて、解体しないでください。

本機を分解・改造した場合は弊社サポート、サービスおよび品質保証の対象外となります。

・除電

本機を操作する場合、事前に金属に触れる等、帯電している電荷をなくしてから操作を行ってください。

欧州指令

CE マーキング

項目	適合規格
CE マーキング *1 	【EMC 指令】 エミッション：EN61326-1 Class A イミュニティ：EN61326-1 Table 2(工業立地用) 【RoHS 指令】 EN 50581：2012

*1 製品シリアルラベルに CE マーキングが記載されている製品が対象です。

注 意

本製品はクラス A 製品であり、工業環境用に設計されています。工業環境以外でのご使用はできません。

廃電気電子機器指令 (2012/19/EU)



(この指令は EU 圏内のみで有効です。)

この製品は WEEE 指令(2012/19/EU) マーキング要求に準拠します。このマークは、この電気電子製品を一般家庭廃棄物として廃棄してはならないことを示します。

製品カテゴリー

WEEE 指令の付属書 1 に示される製品タイプに準拠して、この製品は“監視及び制御装置”の製品として分類されます。EU 圏内で製品を廃棄する場合は、弊社契約代理店までご連絡ください。家庭廃棄物では処分しないでください。

重要事項

この度は、「NETIMPRESS avant」をお買い上げいただきましてありがとうございます。

本機をご使用になる前に、必ず本マニュアルおよび「NETIMPRESS avant スタートアップマニュアル」を読んで理解してください。マニュアルは、お読みになった後、ご使用時にすぐにご覧になれるところに大切に保管してください。本機は、マニュアルを読んで理解した人のみご使用ください。特に、本機をはじめて使用する方は、本機をよく理解し、使い慣れている方から指導を受けることを強くお勧めいたします。

ここでいう本機とは、株式会社D T Sインサイトが製作した NETIMPRESS avant 本体を指し、ターゲットシステム及びホストコンピュータは含まれません。

本機は、精密電子部品で構成された電子機器です。本機の性能を最大限に発揮し、トラブルを予防するために、以下の注意事項をお守りください。

取扱いや接続の誤りで故障した場合は、有償修理となり、場合によっては修理に長期間（2～3ヶ月）を要することもありますので、特に注意をお願いいたします。

ソフトウェア製品及び、マニュアルは株式会社D T Sインサイトが供給した媒体物の破損、資料の落丁の場合のみ保証いたします。

ソフトウェア不適合及び前記以外の問題の解決は、別に締結する保守契約に基づいて実施されます。



警告

電源を投入する前に、プローブ先端の1番ピンの方向がターゲットシステム上のソケットの1番ピンに合っているか必ず確かめてください。

接続を誤ると本機及びターゲットシステムの発煙発火の可能性があります。

注意

プローブおよびケーブル先端部は電子回路の一部が露出していますので、必ず静電気対策された作業環境でご使用ください。

静電気対策されていない環境では、静電気放電により本機及びターゲットシステムを破壊する可能性があります。

目次

本機を安全にご使用いただくために	3
欧州指令	6
重 要 事 項	7
1. AFX100	11
1.1. 本体 (AFX100) 説明	11
1.1.1. キー説明	11
1.1.2. 起動画面	12
1.1.3. 基本操作	12
1.2. 機能一覧	13
2. MENU 操作説明	18
2.1. Page1	18
2.1.1. EPR	18
2.1.2. ERASE	19
2.1.3. BLANK	19
2.1.4. PROGRAM	20
2.1.5. READ	20
2.1.6. COPY	21
2.2. Page2	22
2.2.1. FOLDER SELECT	22
2.2.2. FOLDER DELETE	23
2.2.3. FOLDER COPY	23
2.2.4. FOLDER PROTECT	24
2.2.5. FOLDER SAVE	24
2.3. Page3	25
2.3.1. PROGRAMMING AREA	25
2.3.2. TVCC THRESHOLD	25
2.3.3. WDT SETTING	26
2.3.4. TGT FREQUENCY	26
2.3.5. VERIFY MODE	26
2.3.6. SUM MODE	27
2.4. Page4	28
2.4.1. BAUDRATE SETTING	28
2.4.2. PROBE SELECT	28

2.4.3. I/F SELECT	29
2.4.4. MCU MODE	29
2.4.5. WARNING DISP:LOAD	29
2.4.6. WARNING DISP: AREA	30
2.5. Page5	31
2.5.1. FILE -> BUFFER(LOAD).....	31
2.5.2. BUFFER -> FILE(SAVE)	31
2.5.3. BUFFER CLEAR	32
2.5.4. BUFFER AREA	32
2.5.5. BLOCK STORE.....	32
2.6. Page6	33
2.6.1. SUM CALC	33
2.6.2. YSM FILE CHECK	33
2.6.3. UPLOAD FORMAT	34
2.6.4. RAM DISK AREA	34
2.6.5. BUF ENCRYPT	34
2.7. Page7	35
2.7.1. FILE DELETE (FOLDER).....	35
2.7.2. FILE DELETE (ROOT)	35
2.7.3. FORMAT(SD)	36
2.7.4. FREE DISK SPACE(SD)	36
2.7.5. PARAMETER SAVE	36
2.7.6. PARAMETER LOAD.....	37
2.8. Page8	38
2.8.1. ADD LICENSE	38
2.8.2. READ LICENSE.....	39
2.8.3. VERSION	39
2.8.4. SERIAL NUMBER	40
2.9. Page9	41
2.9.1. LOG ON/OFF	41
2.9.2. LOG DELETE	41
2.10. Page10	42
2.10.1. FIRM UPDATE	42
2.10.2. FPGA UPDATE	43
2.11. Page11	44
2.11.1. DI FILTER.....	44

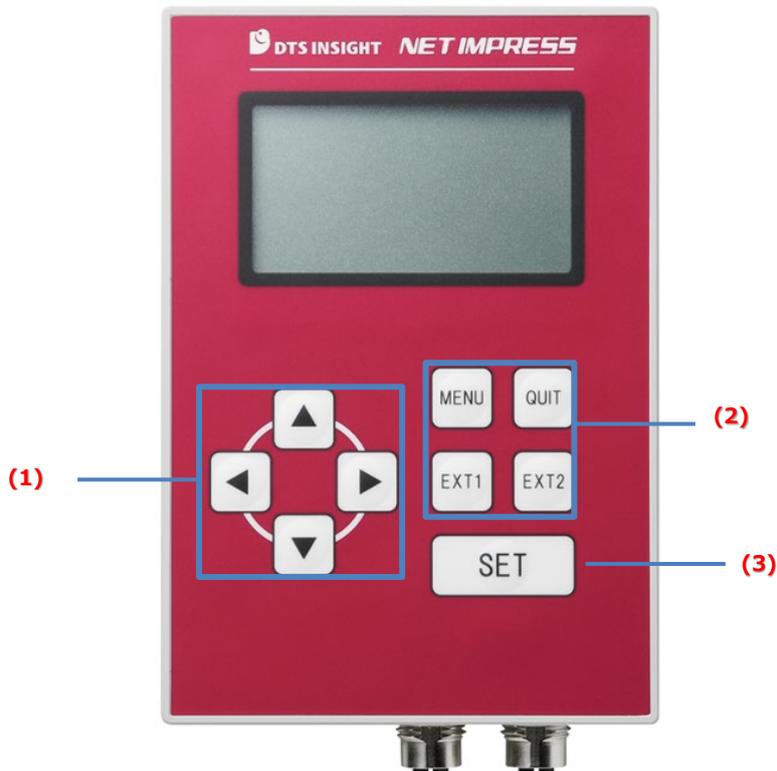
2.11.2. LCD BACKLIGHT	44
2.11.3. TGT VCC(5V) ON/OFF	45
2.12. Page12	46
2.12.1. IP ADDRESS	46
2.12.2. SUBNET MASK	46
2.12.3. GATEWAY.....	47
2.13. Page13	48
2.13.1. CM FUNCTION.....	48
3. EXT キーについて	49
3.1. CSB ファイル.....	50
3.1.1. 概要.....	50
3.1.2. CSB ファイルのフォーマット.....	50
3.1.3. CSB ファイルの作成例	51
3.2. YMN ファイル.....	53
3.2.1. 概要.....	53
3.2.2. YMN ファイルのフォーマット	53
3.3. デバイスコマンド定義	54
4. バーコード制御(RS232C)	55
5. DIO 制御	68
6. アンサーバック制御	72
6.1. 制御フロー.....	73
7. エラーコード一覧.....	74
8. お問い合わせ先	0

1. AFX100

この章では、本機の各種機能の概要及び操作方法について説明します。

1.1. 本体（AFX100）説明

1.1.1. キー説明



1. 値や選択肢の変更の際に使用します。（以下それぞれの方向に合わせて▲キー）
2. ・MENU…MENU画面を表示する際に使用します。（以下MENUキー）
・QUIT…各種操作のキャンセルをする際に使用します（以下QUITキー）
・EXT1…拡張キーです。コマンドシーケンス操作の割り当てが可能です。（以下EXT1キー）
・EXT2…拡張キーです。コマンドシーケンス操作の割り当てが可能です。（以下EXT2キー）

➡ EXTキーの詳細については「3.EXTキーとCSBファイル」をご参照ください。

3. 主に決定時に使用します。（以下SETキー）

1.1.2.起動画面

正常に起動が完了すると次の画面が表示されます。（※表示内容はご使用状況により異なります。）

➡ エラーが表示された場合はエラー一覧をご確認ください。

```
TEST00001
FRX830
FRX830Mxx
-----
IP:192.168. 0. 1
```

※1～3行目はカレント YIM フォルダが選択されている場合に表示します。

- 1 行目…カレント YIM フォルダ名を表示します。
- 2 行目…パラメータの MCUTYPE に指定された文字列を表示します。
- 3 行目…マイコンパック名を表示します。
- 5 行目…IP アドレスを表示します。

1.1.3.基本操作

MENU 画面時

1. MENU キーを押し MENU 画面を開きます。
2. ◀▶キーでページを移動できます。（主な機能毎に 1～13 ページまであります）
▲▼キーでページ内項目を選択できます。
3. SET キーを押すとカーソルで指定された機能画面に移行します。

➡ （各機能の詳細、操作方法は「1.2.機能一覧」、「2.MENU 操作説明」をご参照ください。）

1.2. 機能一覧

➡ 各コマンド実行時にエラーが表示された場合は「エラー一覧」をご覧ください。

[MENU 項目一覧]

Page 1 / DEVICE FUNCTION ➡ 2.1.Page1 へ	
メニュー表示	説明
E.P.R	消去→ブランクチェック→書込み→ベリファイをします
ERASE	消去→ブランクチェックをします
BLANK	ブランクチェックをします
PROGRAM	書込み→ベリファイをします
READ	ベリファイをします
COPY	フラッシュメモリの内容をバッファメモリにコピーしベリファイをします

※ DEVICE FUNCTION コマンドの内容は定義体により上記動作と異なる場合があります。
詳細は定義体のマニュアルをご参照ください。

Page 2 / FOLDER ➡ 2.2.Page2 へ	
メニュー表示	説明
FOLDER SELECT	選択した YIM フォルダをカレント YIM フォルダに設定します
FOLDER COPY	カレント YIM フォルダのコピーを作成します
FOLDER PROTECT	カレント YIM フォルダの保護設定をします (フォルダ属性を Read Only にする)
FOLDER SAVE	カレント YIM フォルダの登録設定をします (SAVE / NOT SAVE)

Page 3 / TARGET SUB 01  [2.3.Page3 へ](#)

メニュー表示	説明
PROGRAMMING AREA	書き込み・ベリファイ等の実行領域（アドレス）を設定します
TVCC THRESHOLD	ターゲットシステムの最低動作電圧を設定します
WDT SETTING	PHXxxx の WDT 信号より出力するクロック周期を設定します。
TGT FREQUENCY	ターゲットシステムの動作周波数を設定します
VERIFY MODE	ベリファイの SUM / FULL の設定をします
SUM MODE	SUM 値の計算方法（8/16bit 加算）、表示方法（8/16bit）を設定します

Page 4 / TARGET SUB 02  [2.4.Page4 へ](#)

メニュー表示	説明
BAUDRATE SETTING	I/F SELECT に合わせたボーレートを設定します
PROBE SELECT	プローブの選択を行います
I/F SELECT	本機とターゲットシステム間の通信 I/F を設定します
MCU MODE	定義体固有のモードを設定します（定義体のマニュアルをご確認ください）
WARNING DISP:LOAD	オブジェクトロード時に対象フラッシュの範囲外のアドレスが含まれていた場合の WARNING 表示（ON/OFF）設定をします。
WARNING DISP:AREA	本機起動時もしくはフォルダ選択時に PROGRAMMING AREA が対象フラッシュの全領域アドレスと異なる場合の WARNING 表示（ON/OFF）を設定します。

Page 5 / BUFFER 01  [2.5.Page5 へ](#)

メニュー表示	説明
FILE → BUFFER(LOAD)	カレント YIM フォルダ内のファイルをバッファメモリへコピーします
BUFFER → FILE(SAVE)	バッファメモリの内容をカレント YIM フォルダ内のファイルへセーブします
BUFFER CLEAR	バッファメモリをクリアします
BUFFER AREA	オブジェクトファイルのロード、セーブを行なう際のアドレス範囲設定を行ないます
BLOCK STORE	バッファメモリの任意の範囲を任意の 1byte データで書き換えます

Page 6 / BUFFER 02  [2.6.Page6 へ](#)

メニュー表示	説明
SUM CALC	バッファメモリのサム値を表示します
YSM FILE CHECK	YSM ファイルとのサム値チェックを実行します
UPLOAD FORMAT	バッファメモリアップロード時のフォーマット(S レコード/インテル HEX)を指定します
RAM DISK AREA	RAM DISK の開始アドレスとサイズを設定します
BUF ENCRYPT	バッファメモリのデータを暗号化する・しないの設定を行ないます

Page 7 / FILE,SD [→ 2.7.Page7 へ](#)

メニュー表示	説明
FILE DELETE(FOLDER)	カレント YIM フォルダ内のファイルを指定削除します
FILE DELETE(ROOT)	ルートディレクトリのファイルを指定削除します
FREE DISK SPACE(SD)	SD カードの空き容量を表示します
PARAMETER SAVE	現在のパラメータ設定をカレント YIM フォルダ内にファイルに保存します
PARAMETER LOAD	カレント YIM フォルダ内のパラメータファイルを読み出します

Page 8 / LICENSE, Version [→ 2.8.Page8 へ](#)

メニュー表示	説明
ADD LICENSE	本機または SD カードへライセンスを付与します
READ LICENSE	本機または SD カードに登録されたライセンスを読み出します
VERSION	本機のメイン(FIRM)、サブ(FPGA)のバージョンを表示します
SERIAL NUMBER	本機および SD カードのシリアル番号を表示します

Page 9 / Action LOG [→ 2.9.Page9 へ](#)

メニュー表示	説明
LOG ON/OFF	本機で実行したコマンド実行ログの ON/OFF のモードを設定します
LOG DELETE	任意の実行ログを消去します

Page 10 / UPDATE  [2.10.Page10](#) へ

メニュー表示	説明
FIRM UPDATE	メインシステム（ファームウェア）のアップデート処理を実行します
FPGA UPDATE	サブシステム（FPGA）のアップデート処理を実行します

Page 11 / HARD SETTING  [2.11.Page11](#) へ

メニュー表示	説明
DI FILTER	Digital I/O 入力のフィルタ時間を設定します
LCD BACKLIGHT	画面部の照明の入/切を設定します
TGT VCC(5V) ON/OFF	本機と接続されている PHX400 の、VCC 端子制御を設定します

Page 12 / ETHER  [2.12.Page12](#) へ

メニュー表示	説明
IP ADDRESS	IP アドレスを設定します
SUBNET MASK	サブネットマスクを設定します
GATE WAY	デフォルトゲートウェイを設定します

Page 13 / CM FUNCTION  [2.13.Page13](#) へ

メニュー表示	説明
CM FUNCTION	各定義体で設定されている固有機能を実行します 定義体のマニュアルをご参照ください。

2. MENU 操作説明

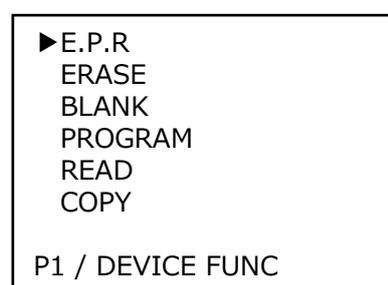
起動時画面表示から MENU キーを操作により、スタンドアロンでの本機の各種機能を実行できます。

MENU Page は 1～13 まであります。

2.1. Page1

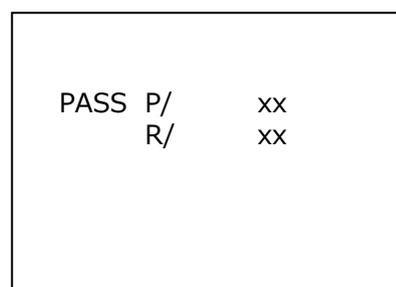
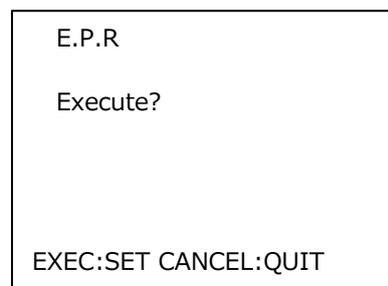
デバイスファンクションを選択し実行します。

各デバイスファンクションで実行される内容については、定義体のマニュアルをご参照ください。



2.1.1.EPR

EPR では ERASE→BLANK→PROGRAM→READ の順に実行します。

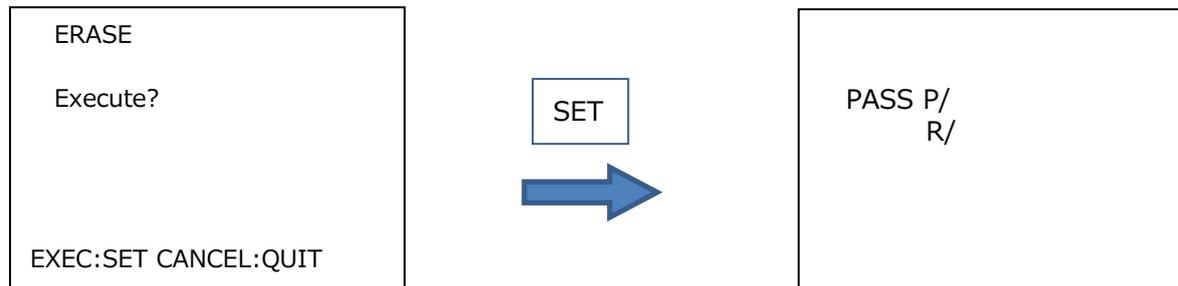


P / … 書き込みの SUM 値

R / … 読み込みの SUM 値

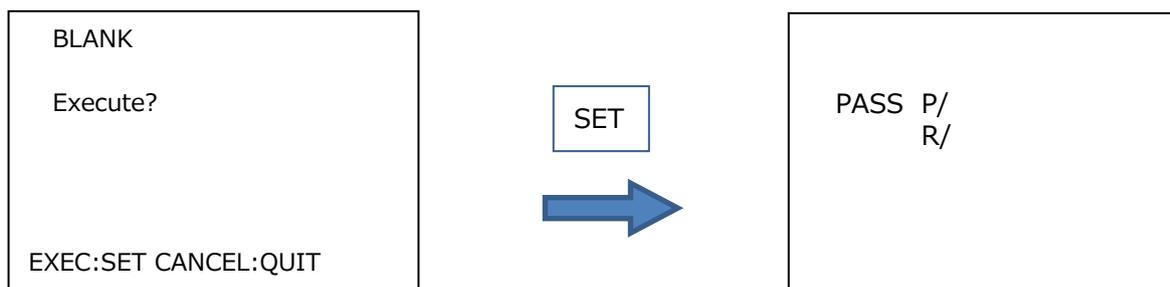
2.1.2.ERASE

フラッシュメモリのデータを消去します。消去後にブランクチェックを行い、消去状態であることを確認します。正常に消去されている場合は“PASS”と表示します。



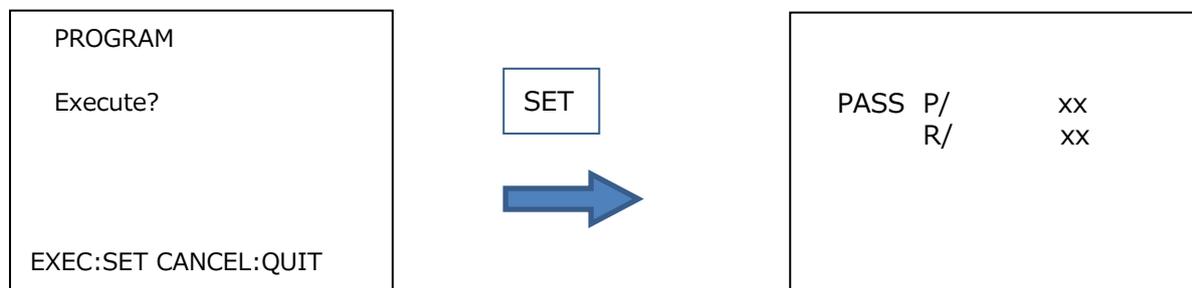
2.1.3.BLANK

ブランクチェックを実行します。フラッシュメモリが消去状態の場合は“PASS”と表示し、消去状態でない場合はそのアドレスまたはそのアドレスを含む消去ブロックの先頭アドレスを表示します。（エラー表示となる場合もあります）



2.1.4.PROGRAM

バッファメモリの内容を、フラッシュメモリに書き込みます。正常に書き込みができバッファメモリの内容とMCU内部のフラッシュメモリ領域が一致する場合は“PASS”と表示し、バッファメモリの内容と違う場合は不一致アドレスを表示します。（エラー表示となる場合もあります）

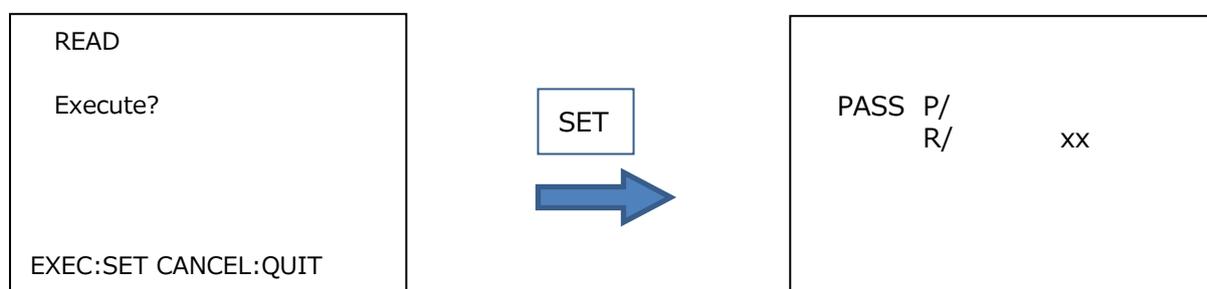


P / ... 書き込みの SUM 値

R / ... 読み込みの SUM 値

2.1.5.READ

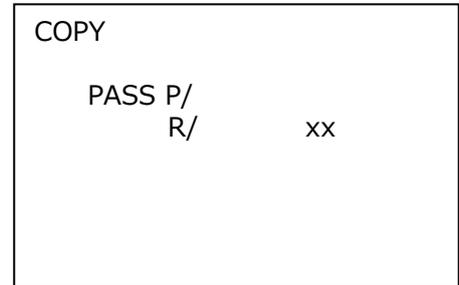
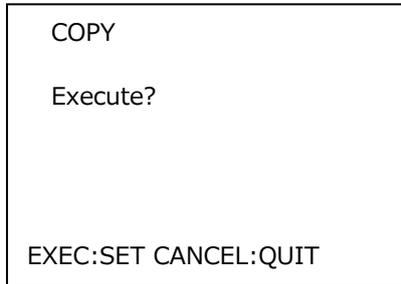
MCU内部のフラッシュメモリの内容と avant 本体 のバッファメモリの内容を比較します。データが一致した場合は“PASS”と表示し、不一致の場合は不一致アドレスを表示します。（エラー表示となる場合もあります）



R / ... 読み込みの SUM 値

2.1.6.COPY

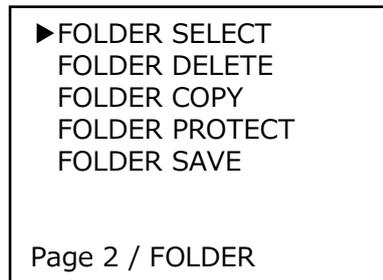
フラッシュメモリ領域の内容を、バッファメモリにコピーします。コピーした後に読み込んだバッファメモリの内容を比較します。コピーを実行すると、カレントファイルが削除されますのでご注意ください。コピーが正常に実行され内容が一致している場合に“PASS”と表示し、不一致の場合は不一致アドレスを表示します。



R / ... 読み込みのSUM値

2.2. Page2

YIM フォルダの選択、消去等の操作を実行します。

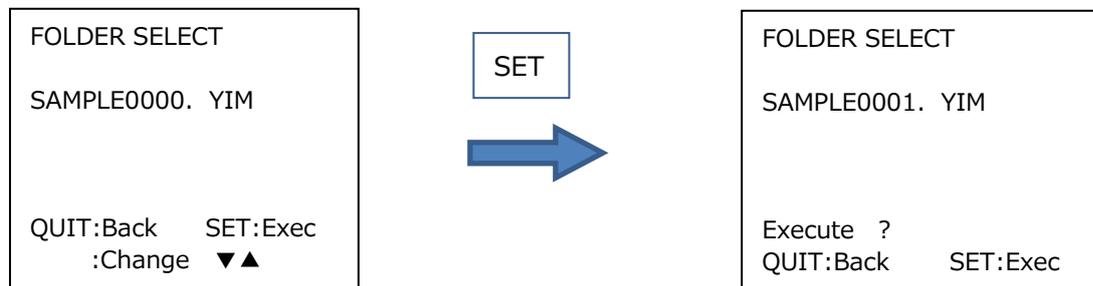


2.2.1.FOLDER SELECT

専用 SD カードに保存された YIM フォルダの中から YIM フォルダを選択し、カレントフォルダに設定します。プログラミングを行う場合、カレントフォルダの設定が必要になります。



PC からカードリーダー経由でも YIM フォルダのコピーは可能ですが、定義体ライセンス登録がされていないフォルダ(定義体)を選択するとエラーとなり、カレントフォルダへの設定は不可となります。

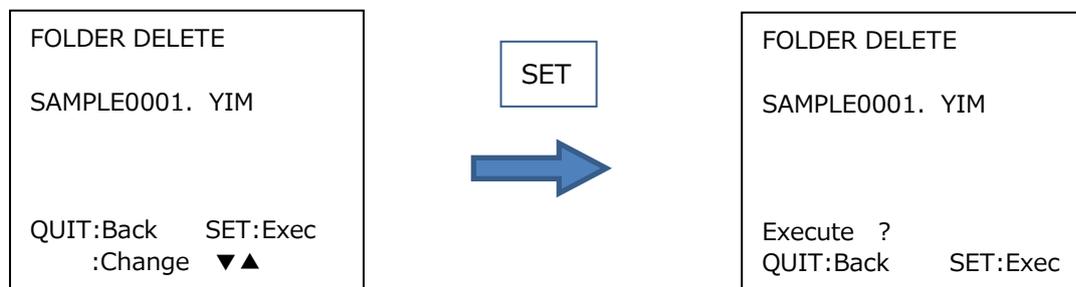


2.2.2. FOLDER DELETE

指定した YIM フォルダを消去します。カレントに指定されている YIM フォルダを消去した場合は、カレント設定も解除されます。



消去を行った YIM フォルダは復元できません。



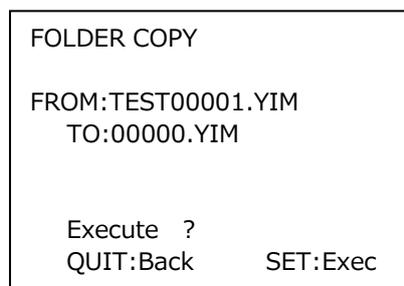
2.2.3.FOLDER COPY

カレントの YIM フォルダを、専用 SD カード内に複製します。

カレント YIM の情報をバックアップする場合に使用します。



スタンドアロンでのコピー操作では固定名称で専用 SD カード内に保存されます。保存名は操作時に LCD に表示されます。



(※既に同じ名前のフォルダが存在する場合は、コピー後のフォルダ名はインクリメントして、存在しないフォルダ名を付けます。)

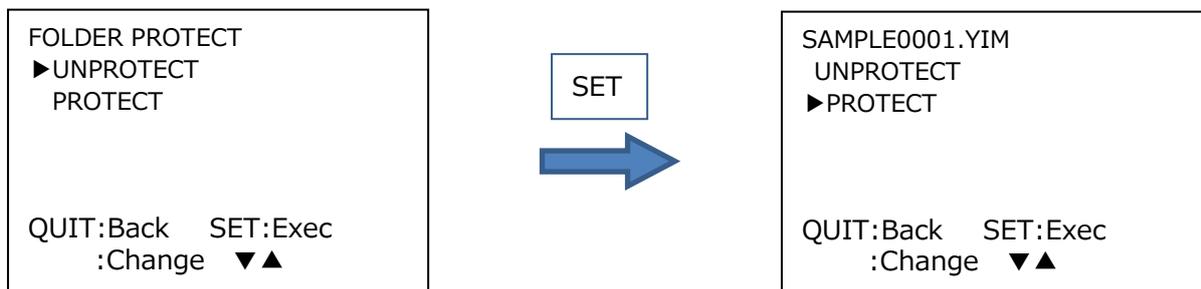
2.2.4.FOLDER PROTECT

カレント YIM フォルダへの操作を禁止設定にします。指定したフォルダへのアクセスを禁止したい場合に使用します。

PROTECT 設定を行うと、設定したフォルダのフォルダ消去、YIM フォルダ内のファイル操作(ファイルコピー、ファイル消去)、バッファメモリへの操作(クリア、ファイルのロード、ファイルのセーブ)が禁止になります。

! スタンドアロン操作時のみ有効な設定となります。PC からカードリーダー経由で指定のフォルダへアクセスする場合は、禁止設定は無効になります。

禁止設定にしたままカレントフォルダを変更した場合、禁止設定にしたフォルダ消去は不可のままとなります。



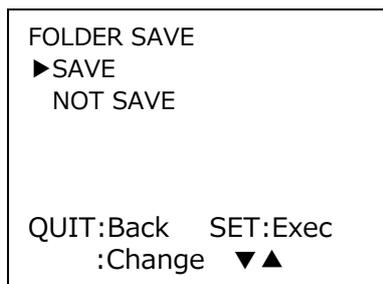
(※最初に▶が指している方が現在の設定となります。)

2.2.5.FOLDER SAVE

カレント YIM フォルダ情報を次回起動時に保存しておくことができます。

SAVE… 電源切断時にカレントフォルダ情報を記憶します。

NOT SAVE… 電源切断時にカレントフォルダ情報を記憶しません。



(※最初に▶が指している方が現在の設定となります。)

2.3. Page3

デバイスファンクション実行時の各種パラメータ(※)の設定を行います。

※ YIM フォルダ内で設定されているパラメータ (ソフトウェアパラメータ)

```
▶PROGRAMMING AREA
TVCC THRESHOLD
WDT SETTING
TGT FREQUENCY
VERIFY MODE
SUM MODE
```

```
P3 / TARGET SUB 01
```

2.3.1. PROGRAMMING AREA

書き込み対象領域を設定します。

F-ADDR, L-ADDR はブロック単位で値が切り替わります。

```
PROGRAMMING AREA
FIRST / LAST
00000000 / 0010FFFF
```

```
QUIT:Back   SET:Exec
▼▲:Change ◀▶:Cursor
```

2.3.2. TVCC THRESHOLD

ターゲットマイコンの最低動作電圧を 0.1~4.5V の範囲で設定します。

ターゲットマイコンの電圧値が設定値以下の場合、ターゲットへの書き込み動作を停止します。

```
TVCC THRESHOLD
  0.1[V]
```

```
QUIT:Back   SET:Exec
:Change   ▼▲
```

2.3.3.WDT SETTING

PHXxxx の WDT 信号より出力する 1 パルスの時間間隔を設定します。

1 ms 単位で 1ms から 200ms の範囲で設定します。

```

WATCHDOG TIMER
      _020[ms]
      ---

QUIT:Back   SET:Exec
  :Change ▼▲
  
```

2.3.4.TGT FREQUENCY

ターゲット周波数の設定を行います。0.1MHz 単位で 0.1MHz から 99.9MHz の範囲で設定します。

```

TARGET FREQUENCY
      _1.0[MHz]
      ---

QUIT:Back   SET:Exec
  :Change ▼▲
  
```

2.3.5.VERIFY MODE

ベリファイを実行する時の、ベリファイ方法を変更します。

ベリファイモードは下記 2 種類です。

FULL READ VERIFY : ターゲットデバイスに書き込まれたデータとバッファメモリのデータを比較します。

SUM READ VERIFY : ターゲットデバイスから受信したサム値とバッファメモリのサム値を比較します。

```

VERIFY MODE
▶FULL VERIFY
  SUM VERIFY

QUIT:Back
SET:Exec
  
```

(※最初に▶が指している方が現在の設定となります。)

2.3.6.SUM MODE

以下操作で実行される、チェック SUM の計算及び計算結果の表示方法を変更します。

- ・ MENU の”P6 / BUFFER 02”グループから SUM CALC を実行した時の SUM 値計算と表示。
- ・ SWX600 から SUM Check を実行した時の SUM 値計算と表示。
- ・ デバイスファンクション実行中の SUM 値計算と実行後の計算値表示。

計算方法(CALC)» 8bit 加算もしくは 16bit 加算
表示方法(DISP)» 8bit 表示もしくは 16bit 表示

```
SUM CALC MODE
▶CALC  8 / DISP 8
  CALC 16 / DISP 16
  CALC  8 / DISP 16

QUIT:Back   SET:Exec
:Change ▼▲
```

2.4. Page4

ターゲット通信に関連する設定、ワーニング設定を行います。

```
▶BAUDRATE SETTING
  PROBE SELECT
  I/F SELECT
  MCU MODE
  WARNING DISP:LOAD
  WARNING DISP:AREA
```

```
P4 / TARGET SUB 02
```

2.4.1.BAUDRATE SETTING

I/F SELECT に合わせたボーレートを設定します。

```
BAUDRATE SETTING
CSI

5Mbps

QUIT:Back  SET:Exec
:Change ▼▲
```

2.4.2.PROBE SELECT

プローブの選択を行います。

PROBE1…プローブ 1 に固定します。

PROBE2…プローブ 2 に固定します。

PROBESELECT…プローブ先端のプローブセレクト信号によって 1 と 2 の切り替えを行います。

(※ プローブセレクト信号が 1,2 共に ON の場合は、プローブ 1 が有効となります。)

```
TARGET PROBE SELECT
▶PROBE 1
  PROBE 2
  PROBE SELECT
```

```
QUIT:Back  SET:Exec
:Change ▼▲
```

2.4.3.I/F SELECT

ターゲットとの通信方法を設定します。

使用する定義体またはマイコンパックで複数選択肢がある場合は本設定より通信方式を選択してください。

I/F SELECT
CSI
QUIT:Back SET:Exec
:Change ▼▲

2.4.4.MCU MODE

定義体で指定されている固有のモード設定をします。

各モード及び、表示される項目については定義体のマニュアルをご参照ください。

2.4.5.WARNING DISP:LOAD

下記状態時のワーニングメッセージ出力の有無を設定します。

- ・バッファメモリへのデータダウンロード時にバッファメモリ領域外エリアへのデータロードを試みた場合

WARNING DISP LOAD
▶ON
OFF
QUIT:Back SET:Exec
:Change ▼▲

(※現在の設定は▶が指している方となります。)

2.4.6.WARNING DISP: AREA

本ファンクションを ON に設定すると、本機起動時もしくはフォルダ選択時に「PROGRAMMING AREA」「BUFFER AREA」がターゲットデバイスの全領域情報と異なる場合に“ADDRESS WARNING”エラーが表示されます。

WARNING DISP: AREA
▶ON
OFF
QUIT:Back SET:Exec
:Change ▼▲

(※現在の設定は▶が指している方となります。)



本設定を OFF にすると上記検知が OFF になります。



ON 設定の場合、デバイスファンクション実行領域が一部領域の設定となっていた場合の検知や、ダウンロードしたオブジェクトデータがエリア外のデータを含んでいた場合の検知を行えます。

2.5. Page5

バッファメモリへの各種操作を行います。

```

▶FILE -> BUFFER(LOAD)
BUFFER -> FILE(SAVE)
BUFFER CLEAR
BUFFER AREA
BLOCK STORE

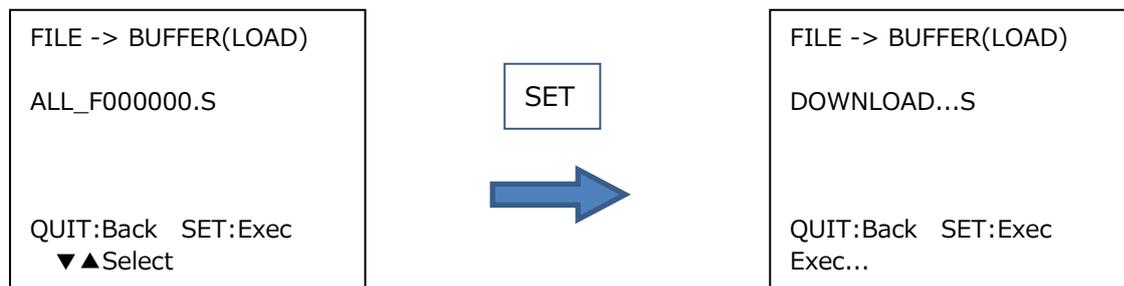
P5 /BUFER 01

```

2.5.1.FILE -> BUFFER(LOAD)

カレントフォルダに保存されているファイルをバッファメモリにロードします。

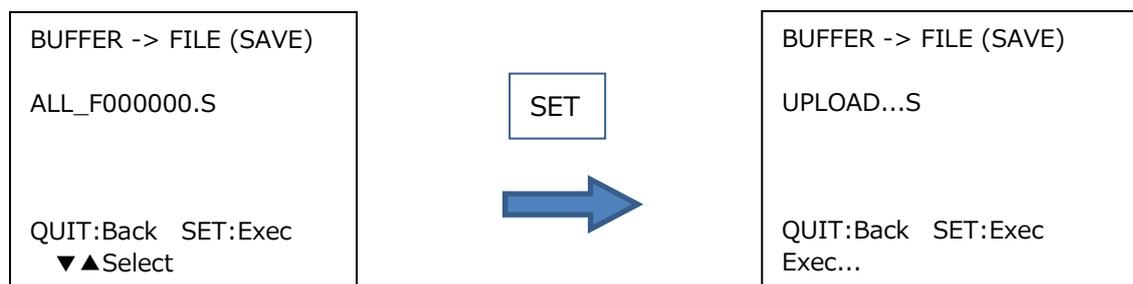
ロードするファイルのフォーマットはモトローラ S、インテル HEX、バイナリに対応しています。



2.5.2.BUFFER -> FILE(SAVE)

バッファメモリのデータをカレントフォルダ内のファイルに保存します。

バッファメモリのコピーバックアップをする場合等に使用します。



2.5.3.BUFFER CLEAR

バッファメモリのデータを全てクリアします。(デフォルト 0xFF)

バッファメモリに新規にデータをセットする場合など、前回値をクリアする時に使用します。

```

BUFFER CLEAR

Execute ?
QUIT:Back  SET:Exec
  
```

2.5.4.BUFFER AREA

オブジェクトファイルのロード、セーブを行なう際のバッファメモリ範囲設定を行ないます。(各値設定可能範囲 0~F)

```

BUFFER AREA
  FIRST / LAST
  00000000 / 0003FFFF
  _

QUIT:Back  SET:Exec
  ▼▲: Change ◀▶:Cursor
  
```

2.5.5.BLOCK STORE

バッファメモリの任意の連続した範囲を 1byte のデータで書き換えます。(各値設定可能範囲 0~F)

範囲の最初と最後のアドレスと、書き込むデータを設定してください。

```

BLOCK STORE
  FIRST / LAST
  00000000 / 0003FFFF
  _

  DATA 00

QUIT:Back  SET:Exec
  ▼▲: Change ◀▶:Cursor
  
```

2.6. Page6

バッファメモリに関する設定及びサム値処理を行います。

```
▶SUM CALC
YSM FILE CHECK
UPLOAD FORMAT
RAM DISK AREA
BUF ENCRYPT
```

```
P6 / BUFFER 02
```

2.6.1.SUM CALC

書き込みエリアとバッファメモリのサム値を表示します。

```
BUFFER SUM CALC

PRG AREA SUM/ 00
BUF AREA SUM/ 00
```

```
QUIT:Back
```

2.6.2.YSM FILE CHECK

YSM ファイルを使用したサムチェックを実行します。

正常に終了をした場合、以下の表示となります。

```
YSM CHECK. . .
```

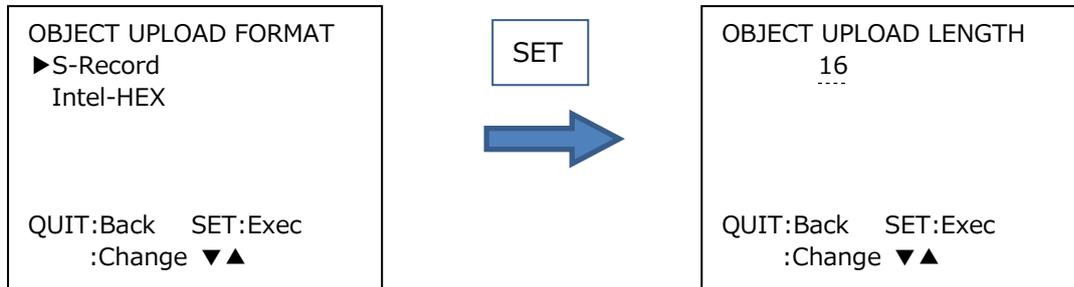
```
PASS
```

```
QUIT : Back
```

2.6.3.UPLOAD FORMAT

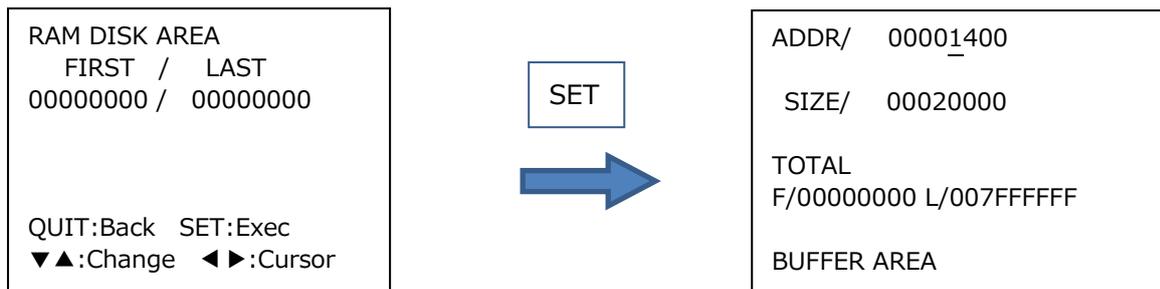
バッファメモリアップロード時のフォーマット(Sレコード/HEX)を指定します。

フォーマットの選択後、1レコードのレングス長を設定してください。



2.6.4.RAM DISK AREA

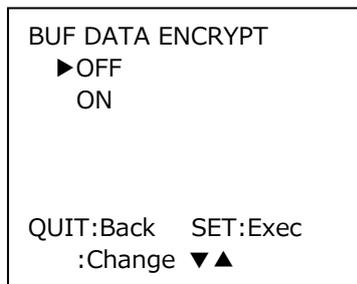
RAM DISK の領域を設定します。



2.6.5.BUF ENCRYPT

バッファメモリの暗号化 ON / OFF の設定を行ないます。

本設定が ON の場合、バッファメモリへのダウンロードが実行されるとバッファメモリの情報が暗号化されて保存されます。(ON 設定以降にダウンロードが実行された場合にのみ有効となります)



2.7. Page7

主にバンドルファイルに関連する操作を行います。

▶ FILE DELETE(FOLDER)
 FILE DELETE(ROOT)
 FORMAT(SD)
 FREE DISK SPACE(SD)
 PARAMETER SAVE
 PARAMETER LOAD

P7 / FILE,SD

2.7.1.FILE DELETE (FOLDER)

カレントフォルダ内の任意のファイルを消去します。

FILE DELETE(FOLDER)

ALL_F000000.LCT

QUIT:Back SET:Exec
 ▼▲:Select

2.7.2.FILE DELETE (ROOT)

専用 SD カードのルートディレクトリにあるファイルを選択して消去します。

FILE DELETE(ROOT)

COMMON.FWK

QUIT:Back SET:Exec
 ▼▲Select

SET



FILE DELETE(ROOT)

COMMON.FWK

Execute ?
 QUIT:Back SET:Exec

2.7.3.FORMAT(SD)

SD カードのクイックフォーマットを実行します。



本処理を実行すると SD カードの全データが消去されます。
(ライセンス情報は消去されません)

```
FORMAT(SD)

Execute ?
QUIT:Back SET:Exec
```

2.7.4.FREE DISK SPACE(SD)

SD カードの残容量を表示します。(メガバイト、バイトの二通り)

```
FREE DISK SPACE(SD)

3683 Mbyte
3862921216Byte

QUIT:Back
```

2.7.5.PARAMETER SAVE

カレントフォルダに保存されているパラメータのバックアップを行います。



カレントフォルダに既に置かれている.PRM ファイルを選択すると上書き保存されます。

```
PARAMETER SAVE

RAM000.PRM

QUIT:Back SET:Exec
▼▲:Select
```

2.7.6.PARAMETER LOAD

カレントフォルダに保存されているパラメータファイルを選択し、パラメータの変更を行います。カレントフォルダに修正したパラメータを置くことで、スタンドアロンでもカレントフォルダの情報を変更することができます。

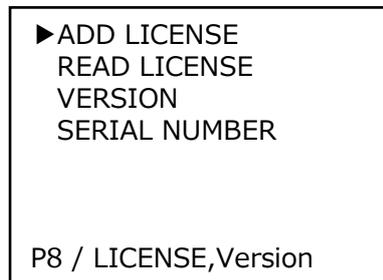


異なるマイコンパックのパラメータファイルのロードを行うと、バッファメモリのクリアが実行される場合があります。

```
PARAMETER LOAD  
  
RAM000.PRM  
  
QUIT:Back SET:Exec  
▼▲:Select
```

2.8. Page8

ライセンス、シリアル番号、バージョンの表示を行います。

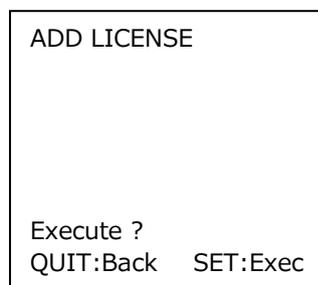


2.8.1.ADD LICENSE

ライセンスファイルを専用 SD カードのルートディレクトリに置いて、本操作を実行するとライセンスの追加登録が行えます。

ライセンスは以下の 2 種類があります。

- ・定義体ライセンス(.LCT)…定義体を使用するために必要となります。SD カード毎に必要となります。
- ・プローブロジックライセンス(.LCP)…プローブハードを使用するために必要となります。



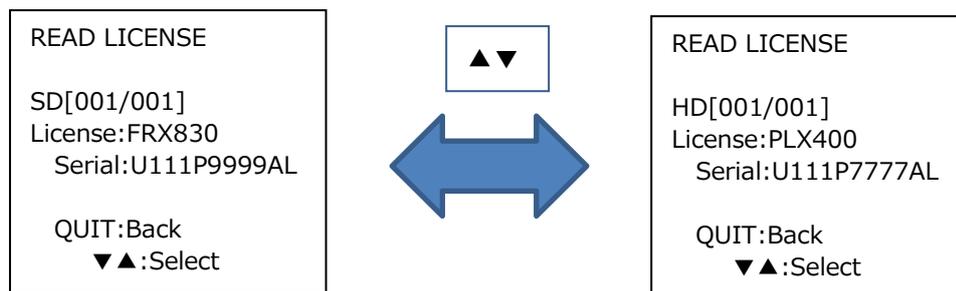
ライセンスファイルが複数置いてある場合、本操作を一度実行することで置いてあるファイル全ての定義体ライセンス登録が実行できます。



ライセンスファイルを複数置いて、本操作を実行し途中でエラーとなった場合、エラー直前までの定義体ライセンスは登録できています。

2.8.2.READ LICENSE

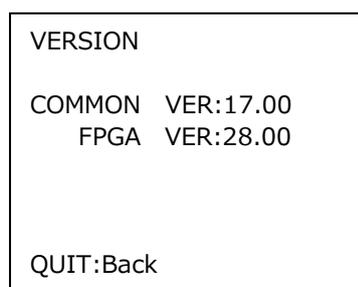
登録されている定義体ライセンス情報の確認が行えます。



LCD:3行目	<ul style="list-style-type: none"> SD[YYY/XXX]：専用SDカードの定義体ライセンス情報です。XXXはトータル数、YYYは登録番号になります。 HD[YYY/XXX]：本機に登録されているプロセッサライセンス情報を表示していることを示します。 <p>※ YYYの登録番号は、専用SDカードまたは本機に登録された順番を示す番号であるため、ライセンス情報には特に関係はありません。</p>
LCD:4行目	<ul style="list-style-type: none"> ライセンス名を表示します。
LCD:5行目	<ul style="list-style-type: none"> 4行目の定義体ライセンス情報に対応するシリアル番号の情報を表示します

2.8.3.VERSION

本機のメイン(FIRM)、サブ(FPGA)のバージョンを表示します。



2.8.4.SERIAL NUMBER

専用 SD カード、本機のシリアル番号を表示します。定義体ライセンス登録時、または弊社への問い合わせ時に本機能にてご確認ください。

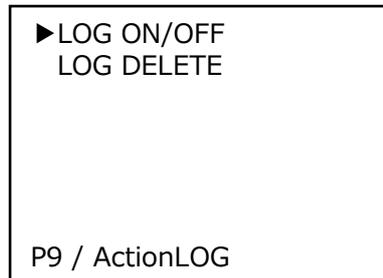
SERIAL NUMBER

SD:UVC13001FS
HARD:UVC14001FP

QUIT:Back

2.9. Page9

本機のコマンド実行ログに関する設定及びログの消去を行います。



2.9.1.LOG ON/OFF

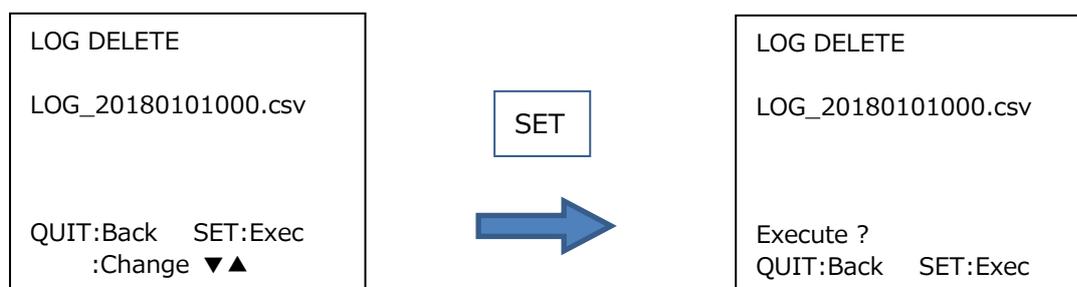
ログの保存設定を行います。ON に設定すると実行コマンドとその結果ログを保存することができます。



保存対象ファンクションをデバイスファンクションのみか全てのファンクションが選択します。

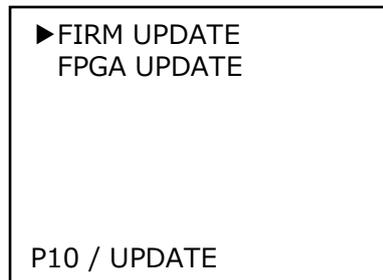
2.9.2.LOG DELETE

指定したログファイルを消去します。



2.10. Page10

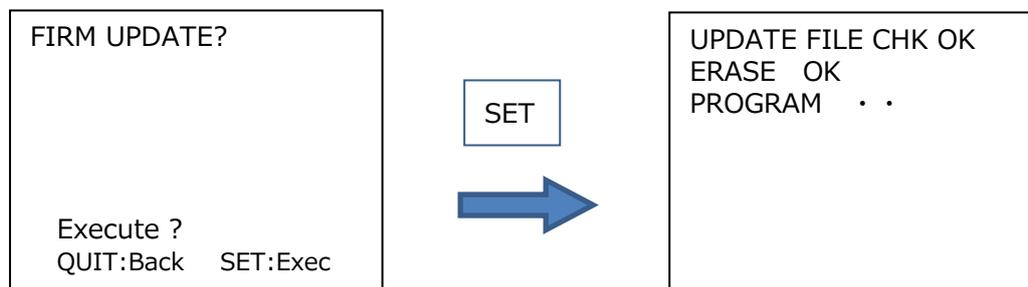
本機で使用する各種 ROM データのアップデートを実行します。



2.10.1.FIRM UPDATE

ファームウェアをアップデートします。ルートディレクトリにファームウェアファイル（拡張子.FWK）を一つ配置してください。

! 複数配置するとエラーとなります。



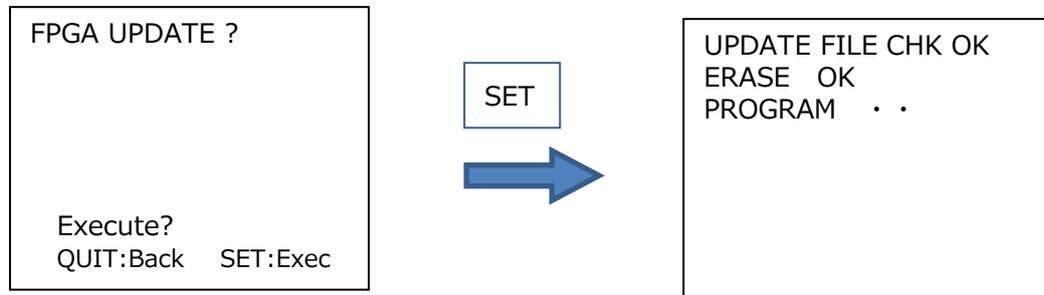
✓ ファームウェアのアップデートには 20 秒～30 秒程度時間がかかります。

! アップデート中に本機の電源を切らないでください。
本機が故障する可能性があります。

2.10.2.FPGA UPDATE

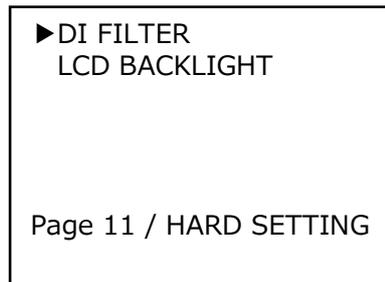
FPGA をアップデートします。ルートディレクトリに FPGA ファイル（拡張子.HWL）を一つ配置してください。

! 複数配置するとエラーとなります。



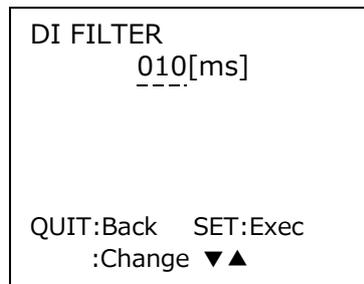
! アップデート中に本機の電源を切らないでください。
本機が故障する可能性があります。

2.11. Page11



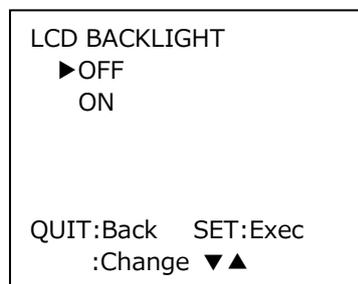
2.11.1.DI FILTER

Digital I/O 入力のフィルタ時間を設定します。1[ms]単位で 001[ms]から 255[ms]の範囲で設定します。



2.11.2.LCD BACKLIGHT

LCD のバックライトの設定をします。



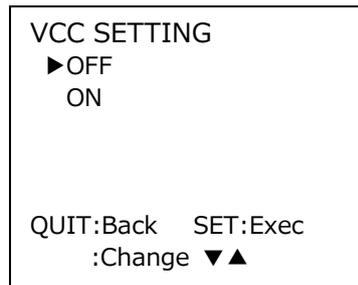
2.11.3.TGT VCC(5V) ON/OFF

本機と接続されている PHX400 への VCC 端子出力 (5V) の設定をします。

本設定を有効にした場合、本機電源起動時及び本設定切替時に VCC 端子から 5V が出力されます。

➡ PHX400 の VCC 端子の詳細は、別途「NETIMPRESS avant Flash Programmer ハードウェアマニュアル」をご確認ください。

! デバイスファンクション実行中は、ご使用の定義体によっては本設定内容に関わらず VCC 端子が制御される場合があります。



2.12. Page12

本機のネットワーク環境の設定を行います。

<p>▶ IP ADDRESS SUBNET MASK GATE WAY</p> <p>Page 12 / ETHER</p>

2.12.1.IP ADDRESS

IP アドレスとポート番号の設定を行います。

<p>IP ADDRESS 192.168. 0. 2 _</p> <p>PORT 1000 h</p> <p>QUIT:Back SET:Exec ▼▲:Change ◀▶:Cursor</p>

2.12.2.SUBNET MASK

サブネットマスクの設定を行います。

<p>SUBNET MASK 255.255.255. 0 _</p> <p>QUIT:Back SET:Exec ▼▲:Change ◀▶:Cursor</p>
--

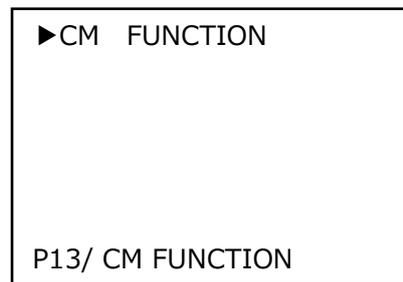
2.12.3.GATEWAY

ゲートウェイの設定を行います。(設定可能範囲 0~255)

GATEWAY 0. 0. 0. 0
QUIT:Back SET:Exec ▼▲:Change ◀▶:Cursor

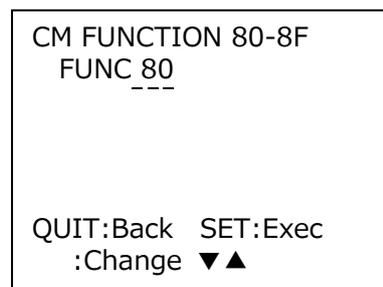
2.13. Page13

本機ハードウェアの設定を行います。



2.13.1.CM FUNCTION

各ファンクションについての詳細は定義体マニュアルをご参照ください。



3. EXT キーについて

本機には2つのEXTキー(EXT1, EXT2)があり、各キー用にあらかじめ設定しておくことで複数のコマンドを連続的に実行することができます(連続実行可能コマンド最大数 16)。コマンドシーケンスを割り当てるためには、CSBファイル(⇒詳細は3.1CSBファイル)が必要となります。



設定例

EXT1

LK1,02,FB0(XXX.YIM),DF;EPR

(EXT1 を押すと、カレント YIM フォルダを
XXX.YIM フォルダに切り替えて EPR を実行)

EXT2

LK2,01,DD;Program

(EXT2 を押すと Program を実行)

3.1. CSB ファイル

3.1.1.概要

CSB ファイルはワンアクションキー機能（EXT キー操作）を利用する際に必要となります。



CSB ファイルの名称は任意ですが、拡張子(.CSB)を付けて保存してください。



CSB ファイルは、SD カードのルートディレクトリに 1 つだけ配置してください。複数配置するとエラーとなります。

3.1.2.CSB ファイルのフォーマット

CSB ファイルのフォーマットは、下記の通りです。コマンドの区切りは“,”(1 バイト)を使用します。

```

LK1, count, cmd1, cmd2, ..., cmd16; comment
LK2, count, cmd1, cmd2, ..., cmd16; comment
  ①    ②    ③                ④    ⑤
  
```

① KEY No.コード (3 バイト):

LK1 = EXT1 キーへのアサインを示します。

LK2 = EXT2 キーへのアサインを示します。

② *count* (2 バイト):

実行コマンドの数を示します。10 進表記のため、“09”の上は“10”となり、最大値は、“16”です。未使用とするキーに対しては“00”を設定してください。

③ *cmd1, cmd2, ..., cmd16*:

実行するコマンドを記載します。 詳細は 3.3 デバイスコマンド定義へ



CSB ファイル内で設定可能なコマンドの最大数は、EXT1 キー、EXT2 キーそれぞれ 16 コマンドです。

④ コメント区切り “;” (1 バイト):

⑤のコメントとの区切りを示します。

⑤ *comment* (任意の文字列 + CRLF):

コメントを付与しておきたい場合に、コメントを記述します。(不要な場合は④までの記述で終了)



コメント付与時は文字列の末に必ず改行コード (CRLF) を記述してください。

3.1.3.CSB ファイルの作成例

例 1

【記述内容】

```
LK1,01,DF;EPR
```

```
LK2,01,DD;Program
```

【実行シーケンス内容】

EXT1 キー = E.P.R.実行、EXT2 キー = Program 実行

※前提条件: YIM フォルダが選択された状態になっていること。

例 2

【記述内容】

```
LK1,01,FB0(SAMPLE.yim);CHANGE YIM
```

```
LK2,01,DF;E.P.R
```

【実行シーケンス内容】

EXT1 キー = 指定 YIM フォルダをロード、EXT2 キー = E.P.R.実行

“EXT1”キーを押すと、“SAMPLE.YIM”が Current IMPRESS Module としてロードされます。

“EXT2”キーを押すと、“SAMPLE.YIM”の内容がターゲットに EPR されます。

例 3**【記述内容】**

LK1,04,FB0(SAMPLE_1.yim),DF,FB0(SAMPLE_2.yim),DF;2file sequence EPR

LK2.01.DC;Erase

【実行シーケンス内容】

EXT1 キー = 2つのYIMフォルダの連続プログラミング、EXT2 キー = Erase 実行

“EXT1”キーを押すと、“SAMPLE_1.YIM”が Current IMPRESS Module としてロードされ、その内容がターゲットに EPR されます。

続いて、“SAMPLE_2.YIM”が Current IMPRESS Module としてロードされ、その内容がターゲットに EPR されます。

“EXT2”キーを押すと、ターゲットのフラッシュメモリが Erase されます。

【用途例】

フラッシュマイコンに外部フラッシュメモリが接続されている基板に対し、内蔵フラッシュと外部フラッシュの両方にプログラミングする場合、など。

3.2. YMN ファイル

3.2.1. 概要

YMN ファイルはコマンドシーケンスを登録するためのファイルです。
CSB ファイル内でコマンドコード“FBD(XXXXXXXX.YMN)”を定義すると、その YMN ファイルで設定されたコマンドを実行することができます。



YMN ファイルは SD カードのルートディレクトリに複数配置可能です。



YMN ファイル内で設定可能なコマンドの最大数は、100 コマンドです。

3.2.2. YMN ファイルのフォーマット

YMN ファイルはテキストファイルで、実行したいファンクションコマンドを明記します。
YMN ファイルフォーマット規則を以下に示します。

フォーマット規則

- 登録するコマンド（キー定義）は CSB ファイルと同じコマンドを使用する。
- 1 行に 1 コマンドとする。
- 1 行は必ず C R L F で終わることとする。
- 1 行は C R L F (L F も可) を含め 2 5 6 B y t e 以内とする。
- 空白行を認める。
- コマンドから、コメントまでのスペースとタブを認める。
- “//”以降コメント。

－ YMN ファイル作成例（テキストファイル）－

```
// T E S T 1 . Y M N
F B 0 ( A . y i m )           // YIM フォルダ A に切換
D F                          // ターゲット A に書込 ( E . P . R )

F B 0 ( B . y i m )           // YIM フォルダ B に切換
D F                          // ターゲット B に書込 ( E . P . R )
```

3.3. デバイスコマンド定義

CSB ファイルおよび YMN ファイル作成時のコマンド定義を示します。

コマンドコード	内容
F0 (XXXXXXXX YYYYYYYY)	デバイスファンクション領域設定 (XXXXXXXX: ファーストアドレス、YYYYYYYY: ラストアドレス) ※アドレス省略時は、フラッシュ ROM 全領域。
F1 (XXXXXXXX YYYYYYYY ZZ)	ブロックストア: (バッファメモリ内の指定範囲に任意のデータを書き込みます。) (XXXXXXXX: ファーストアドレス、YYYYYYYY: ラストアドレス、ZZ: データ) ※アドレス、データ省略時は、フラッシュ ROM 全領域、データは 00。
F2	バッファメモリクリア
FF1 (XXXXXXXX.YYY)	ファイル呼び出し (XXXXXXXX.YYY: ロードファイル名)
FF5 (XXXXXXXX YYYYYYYY)	転送アドレス設定 (XXXXXXXX: ファーストアドレス、YYYYYYYY: ラストアドレス) ※アドレス省略時は、フラッシュ ROM 全領域。
D9	Blank (デバイスファンクション)
DC	Erase (デバイスファンクション)
DD	Program (デバイスファンクション)
DE	Read (デバイスファンクション)
DF	E.P.R. (デバイスファンクション)
FB0 (XXXXXXXX.YIM)	カレント YIM フォルダの切替え (XXXXXXXX.YIM: YIM フォルダ名)
FBD (XXXXXXXX.YMN)	YMN ファイルの実行 (XXXXXXXX.YMN: 実行対象の YMN ファイル名)

4. バーコード制御(RS232C)

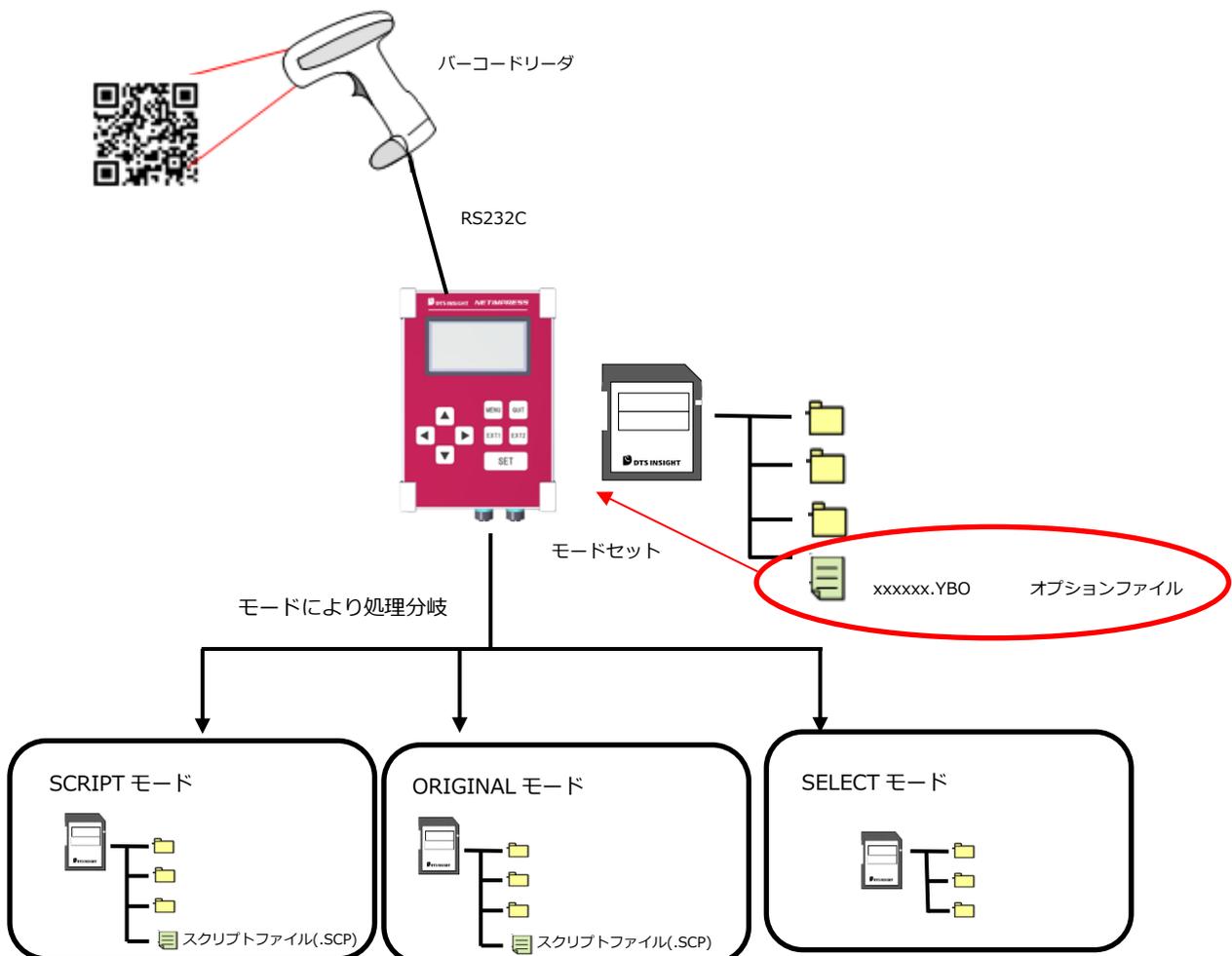
本機は RS232C 接続タイプのバーコードリーダを接続することができます。

バーコードリーダを使用する場合は以下の環境を準備します。

- ・ BCR ケーブル(OCX110)
- ・ バーコードリーダ本体 (RS-232C 接続)
- ・ 読み込むためのバーコード
- ・ YBO ファイル

! バーコードリーダはスタンドアロン環境でのみ使用可能です。

【 概要図 】



YBO ファイルにて設定された各種モードに応じて受信したデータを解釈しスタンドアロン制御を実行します。YBO ファイルのオプション設定により RS232C のボーレート設定、受信データの開始位置、終了位置、終端コードの指定を行えます。

■ 処理モード

- (1) バーコードと一致したスクリプトファイルを実行するモード (SCRIPT モード)
- (2) 弊社規定フォーマットのバーコードを読み取り本体制御を行うモード (ORIGINAL モード)
- (3) バーコードと一致した YIM フォルダを選択し、続けてターゲットへのアクセス(EPR など)を実行するモード(SELECT モード)

【 バーコードリーダ側設定 】

NETIMPRESS avant でバーコードを読み取るためには、
バーコードリーダ側の設定を以下のように行ってください。

バーコードリーダ側の通信設定

ボーレート	9600bps
パリティ	なし
ストップビット	1 ストップビット
データ長	8 ビット

データフォーマット

プリフィックス (ヘッダ)	なし
サフィックス (フッタ) ※	CR (0x0d)
スキャンデータ転送フォーマット	<データ> <サフィックス>



サフィックス情報は、YBO ファイルで指定されている場合は YBO ファイルの情報が優先されます。

【 YBO ファイル 】

- ・ファイルは専用ソフトウェア（AZ486）での編集／作成が可能です。
(AZ486 は弊社ホームページよりダウンロード可能です。)
- ・ライターに挿入されている SD カードのルートディレクトリに置くことで有効になります。
- ・ルートに無い場合は、バーコード処理は無効になります。(バーコード受信拒否の状態になります)



YBO ファイルは **SD カードのルートディレクトリに 1 つだけ**配置が可能です。
ファイルが 0 個または 2 個以上の場合は、バーコード処理は無効になります。

■ YBO ファイル名

XXXXX.YBO

※ 1 XXXXX は自由に指定が可能です。

※ 2 拡張子は、YBO で固定になります。



拡張子は大文字でないと認識されません。

■ YBO ファイル構成

/	/		X	X	X	X	X	.	Y	B	O			
/	/		2	0	x	x	.	x	x	.	x	x		
[M	O	D	E]									← ヘッダ
S	C	R	I	P	T									← ヘッダ
[S	E	T	T	I	N	G]						←
S	T	A	R	T	=	0	0	0	2					
E	N	D	=	0	0	1	2							
S	U	F	F	I	X	=	0	x	0	D				
[E	N	D]										

■ フォーマットについて

1. [MODE]の行まではコメントとして全て無視されます。
2. 記述の順番は、[MODE]→ [SETTING]とします。
3. [SETTING]の項目は、記述がない場合は START=0, END=デリミタ, SUFFIX=0x0D で動作します。
4. ファイルの終端には[END]を置く（必須）。ファイルの終端まで[END]が無い場合はフォーマットエラーとします。

■ [MODE]

[MODE]の次の行に記述される文字列により、バーコードデータの処理モードを決定します。

本項目の記述は YBO ファイルの必須項目となります。

[MODE]及び次の行に有効な記述が無い場合、バーコード処理は無効になります。

ヘッダ情報	記述	詳細
[MODE]	SCRIPT	受信データと一致したスクリプトファイルを実行します。 指定するバーコードは.SCP(拡張子)を除いて指定します。
	ORIGINAL	バーコードからリードしたデータに対応したファンクションを実行します。 規定フォーマットを使用してください。
	SELECT	バーコードから読み出したデータと一致する YIM フォルダを選択します。(選択のみ) 指定するバーコードは.YIM(拡張子)を除いて指定します。
	SELECT/XXXX	バーコードから読み出したデータと一致する YIM フォルダを選択して、続けてデバイスファンクションを実行するモードです。 XXXX には、ERASE, BLANK, PROGRAM, READ, EPR, COPY の 6 項目の中から 1 つを指定できます。指定するバーコードは.YIM(拡張子)を除いて指定します。

■ [SETTING]

受信したバーコードの有効範囲、及び終端コードの指定を行えます。

以下の設定は省略することも可能です。

ヘッダ情報	引数	記述 (詳細)
[SETTING]	START=	<p>サンプリング開始ポイント： データサンプルの開始ポイントを指定します。 設定範囲：1～2047 (10 進) 0x1～0x7FF (16 進)</p> <p>※ “ORIGINAL”モード以外で有効</p>
	END=	<p>サンプリング終了ポイント： データサンプルの終了ポイントを指定します。 設定範囲：1～2047 (10 進) 0x1～0x7FF (16 進)</p> <p>※ “ORIGINAL”モード以外で有効</p>
	SUFFIX=	<p>終端コードオプション： バーコードデータの終端コードを指定することが可能です。 指定が無い場合は、0x0D (CR) がデフォルトの終端コードとなります。</p> <p>指定可能な byte 数：1byte 指定可能な文字：ASCII コード 0～127 (10 進) 0x0～0x7F (16 進)</p> <p>※ “ORIGINAL”モード以外で有効</p>

※ SUFFIX を ASCII で指定する場合は以下表の Character を' (シングルクォーテーション) でくります。

例：0 を SUFFIX と指定する場合

SUFFIX='0'

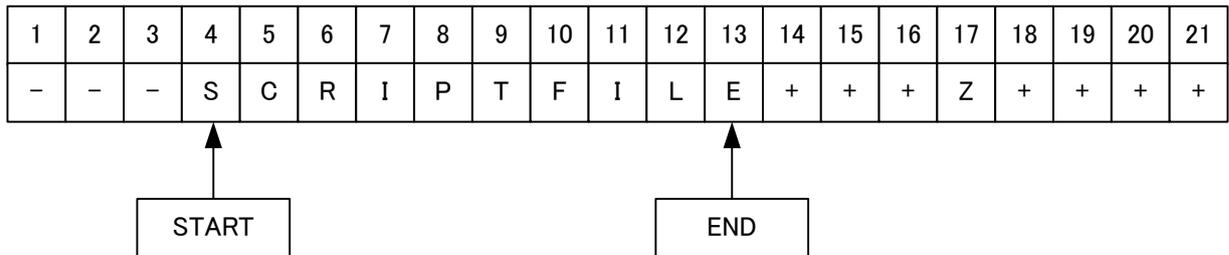
■ SUFFIX に指定可能なコード対応表

Code		Character									
10 進	16 進										
0	00	NUL	33	21	!	66	42	B	99	63	c
1	01	SOH	34	22	"	67	43	C	100	64	d
2	02	STX	35	23	#	68	44	D	101	65	e
3	03	ETX	36	24	\$	69	45	E	102	66	f
4	04	EOT	37	25	%	70	46	F	103	67	g
5	05	ENQ	38	26	&	71	47	G	104	68	h
6	06	ACK	39	27	'	72	48	H	105	69	i
7	07	BEL	40	28	(73	49	I	106	6a	j
8	08	BS	41	29)	74	4a	J	107	6b	k
9	09	HT	42	2a	*	75	4b	K	108	6c	l
10	0a	LF	43	2b	+	76	4c	L	109	6d	m
11	0b	VT	44	2c	,	77	4d	M	110	6e	n
12	0c	FF	45	2d	-	78	4e	N	111	6f	o
13	0d	CR	46	2e	.	79	4f	O	112	70	p
14	0e	SO	47	2f	/	80	50	P	113	71	q
15	0f	SI	48	30	0	81	51	Q	114	72	r
16	10	DLE	49	31	1	82	52	R	115	73	s
17	11	DC1	50	32	2	83	53	S	116	74	t
18	12	DC2	51	33	3	84	54	T	117	75	u
19	13	DC3	52	34	4	85	55	U	118	76	v
20	14	DC4	53	35	5	86	56	V	119	77	w
21	15	NAK	54	36	6	87	57	W	120	78	x
22	16	SYN	55	37	7	88	58	X	121	79	y
23	17	ETB	56	38	8	89	59	Y	122	7a	z
24	18	CAN	57	39	9	90	5a	Z	123	7b	{
25	19	EM	58	3a	:	91	5b	[124	7c	
26	1a	SUB	59	3b	;	92	5c	¥	125	7d	}
27	1b	ESC	60	3c	<	93	5d]	126	7e	~
28	1c	FS	61	3d	=	94	5e	^	127	7f	DEL
29	1d	GS	62	3e	>	95	5f	_			
30	1e	RS	63	3f	?	96	60	`			
31	1f	US	64	40	@	97	61	a			
32	20		65	41	A	98	62	b			

※ START, END, SUFFIX について

① START=4, END=13 と指定された場合

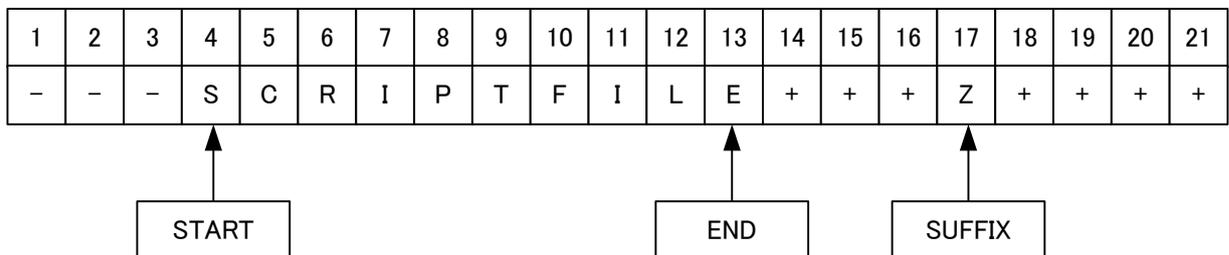
バーコードの 4byte~13byte の文字を有効データとします。



② START=4, END=13, SUFFIX='Z' と指定

バーコードの 16byte (Z:17byte の一つ手前) までプログラマは取得します。

バーコードの 4byte~13byte の文字を有効データとします。

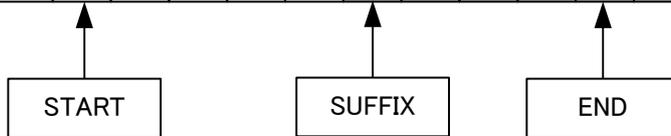


③ START=4, END=13, SUFFIX='Z' と指定

バーコードは 8byte (Z:9byte の一つ手前) まで取得します。
 END の前に SUFFIX があるためエラーとなります。



1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
-	-	-	S	C	R	I	P	Z	F	I	L	E	+	+	+	+	+	+	+	+

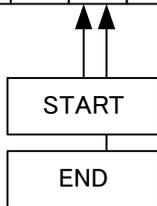


④ START=4, END=4 の場合

4byte 目のデータ 'S' が有効データとなります。



1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
-	-	-	S	C	R	I	P	T	F	I	L	E	+	+	+	Z	+	+	+	+

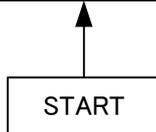


⑤ START=4 だけ指定された場合

4byte 目～21byte 目までが有効データとなります。



1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
-	-	-	S	C	R	I	P	T	F	I	L	E	+	+	+	Z	+	+	+	+

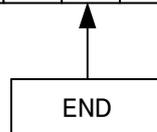


⑥ END=13 だけ指定された場合

1byte 目～13byte 目までが有効データとなります。



1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
-	-	-	S	C	R	I	P	T	F	I	L	E	+	+	+	Z	+	+	+	+



【 実行モード 】

(1) SCRIPT モード

■ 概要

SD カードのルートに置かれたスクリプトファイル（拡張子：SCP）と、
バーコードの情報を比較し一致したスクリプトファイルを実行します。

スクリプトファイルはお客様で作成／準備していただく必要があります。
比較するバーコードはファイル名までで、拡張子は比較しません。

■ 本モードでの YBO ファイル作成例

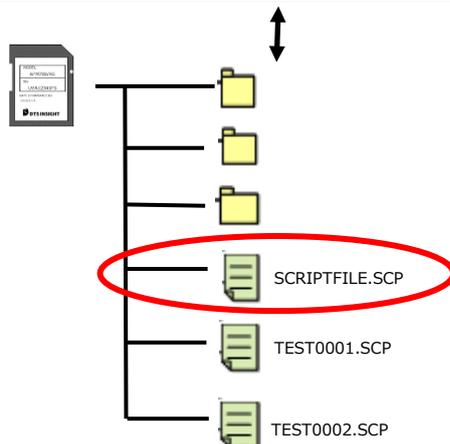
[M	O	D	E]														
S	C	R	I	P	T														
[S	E	T	T	I	N	G]											
S	T	A	R	T	=	0	0	0	4										
E	N	D	=	0	0	1	3												
[E	N	D]															

例：YBO ファイルが上記のように指定されている場合

以下のバーコードが読み込まれると、4～13 文字目の文字列で拡張子『SCP』のファイル名をルートディレクトリ上で検索し、見つかった場合はそのスクリプトファイルを実行します。



1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
-	-	-	S	C	R	I	P	T	F	I	L	E	+	+	+	+	+	+



バーコードと拡張子 SCP の
ファイル名を比較

(2) ORIGINAL モード

■ 概要

規定のフォーマットで作成されたバーコードを読み取り、NETIMPRESS avant の制御を行えるモードです。コマンド一覧にある制御であれば複数コマンドを順番に実行することも可能です。

■ 本モードでの YBO ファイル作成例

[M	O	D	E]												
O	R	I	G	I	N	A	L										
[S	E	T	T	I	N	G]									
[E	N	D]													

■ フォーマット

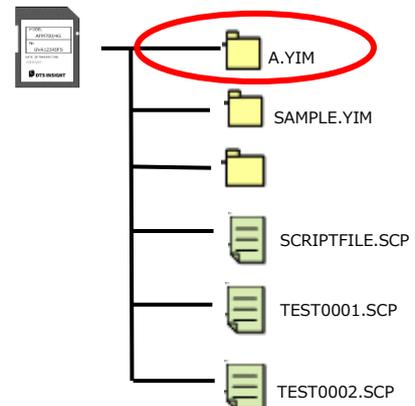


1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
①	②	③										②				
0	2	/	F	B	0	\$	A	.	Y	I	M	/	D	F	/	/

- ① コマンド数
01～99 (10進)
- ② コマンド区切り
/ (固定)
コマンド ⇔ コマンドの間は'/'を配置する
- ③ コマンド
対応するコマンドを記述
(コマンドと引数、引数と引数の間は'\$'を置く)
- ④ デリミタ (終端コード)
// (固定)
終端コードは 2byte

上記例のバーコードの場合、

1. 『FB0\$A.YIM』 : A.YIM を選択
 2. 『DF』 : EPR を実行
- の順に処理を実行されます。



■ コマンド

使用可能なコマンドは以下の通りとします。

コマンド	概略	内容／記述例
FB0	セレクトモジュール (SelectModule)	YIM フォルダの選択／ FB0\$SAMPLE.YIM
FF1	ロードファイル (LoadFile)	オブジェクトファイルのバッファロード／ FF1\$TEST.S
F2	バッファクリア (BufferClear)	バッファのクリア／ F2
D8	コピー (Copy)	コピーの実行／ D8
D9	ブランクチェック (Blank)	ブランクチェックの実行／ D9
DC	イレーズ (Erase)	イレーズ・ブランクチェックの実行／ DC
DD	プログラム (Program)	プログラム・ベリファイの実行／ DD
DE	ベリファイ (Read)	ベリファイの実行／ DE
DF	EPR	EPR の実行／ DF

■ 制限事項

1. バーコード長（データ受信開始～デリミタまで）は0x800（2KB）までとします。
0x800 を超える場合はエラーとします。

(3) SELECT モード

■ 概要

SD カードのルートに置かれた YIM フォルダ（拡張子：YIM のフォルダ）と、バーコードの情報を比較し一致した YIM フォルダを選択します。

選択後、/XXX で指定されるデバイスファンクションを続けて実行します。

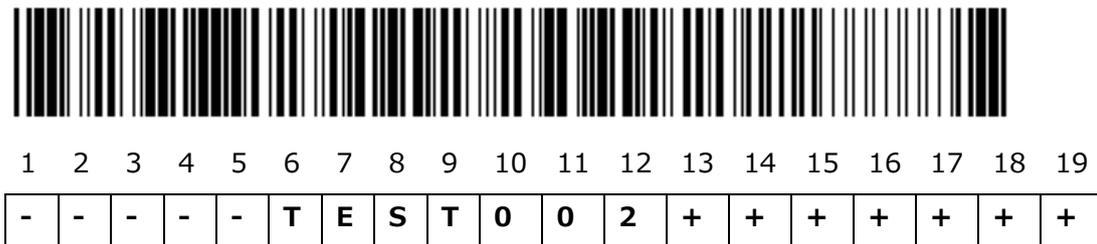
■ 本モードでの YBO ファイル作成例

[M	O	D	E]													
S	E	L	E	C	T	/	E	P	R									
[S	E	T	T	I	N	G]										
S	T	A	R	T	=	0	0	0	6									
E	N	D	=	0	0	1	2											
[E	N	D]														

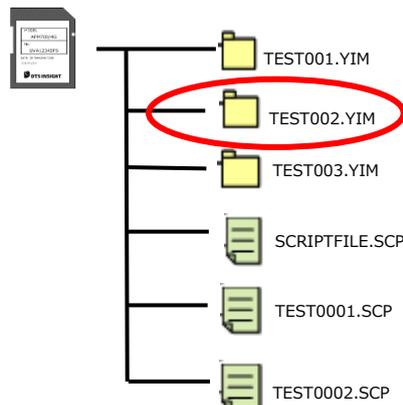
例：YBO ファイルが上記のように指定されている場合

以下のバーコードが読み込まれると、6～12 文字目の文字列で拡張子『YIM』のフォルダ名をルートディレクトリ上で検索し、見つかった場合は YIM フォルダを選択します。

フォルダ選択後、EPR を実行します。



バーコードと拡張子YIMのフォルダ名を比較



5. DIO 制御

Digital I/O の入出力により、スクリプトファイルの選択・実行、ライタの実行状態 (RUN 信号) の通知、フラッシュへの書き込みまたはスクリプト実行の OK/NG の状態 (PASS, ERR 信号) の通知を行うことが可能です。

【 スクリプトファイル 】

スクリプトファイルは、Digital I/O の制御、フラッシュへの書き込み実行、書き込み品種の選択などをシーケンシャルに実行可能にした実行ファイルとなっています。

スクリプトファイルは、スクリプト作成ソフト (AZ488) を使用して作成を行ってください。

<スクリプトファイルで実行可能なコマンド一覧>

- ・ フォルダセレクト
- ・ バッファメモリクリア
- ・ ファイルロード
- ・ Digital I/O 出力 OUT0~OUT7
- ・ Digital I/O 入力 IN0~7
- ・ ウェイト指定
- ・ デバイスファンクション BLANK
- ・ デバイスファンクション ERASE
- ・ デバイスファンクション PROGRAM
- ・ デバイスファンクション READ
- ・ デバイスファンクション EPR

【 スクリプト実行で使用する信号一覧 】

Signal Name	definition	Script※1	I/O
Digital I/O ST0	Script 選択信号 0 (DigitalI/O 入力)	Script 選択:bit0※2	I
Digital I/O ST1	Script 選択信号 1 (DigitalI/O 入力)	Script 選択:bit1※2	I
Digital I/O ST2	Script 選択信号 2 (DigitalI/O 入力)	Script 選択:bit2※2	I
Digital I/O ST3	Script 選択信号 3 (DigitalI/O 入力)	Script 選択:bit3※2	I
Digital I/O ST4	Script 選択信号 4 (DigitalI/O 入力)	Script 選択:bit4※2	I
Digital I/O ST5	Script 選択信号 5 (DigitalI/O 入力)	Script 選択:bit5※2	I
Digital I/O ST6	Script 選択信号 6 (DigitalI/O 入力)	Script 選択:bit6※2	I
Digital I/O ST7	Script 選択信号 7 (DigitalI/O 入力)	Script 選択:bit7※2	I
Digital I/O IN0	Digital I/O 入力信号 0	IN0	I
Digital I/O IN1	Digital I/O 入力信号 1	IN1	I
Digital I/O IN2	Digital I/O 入力信号 2	IN2	I
Digital I/O IN3	Digital I/O 入力信号 3	IN3	I
Digital I/O IN4	Digital I/O 入力信号 4	IN4	I
Digital I/O IN5	Digital I/O 入力信号 5	IN5	I
Digital I/O IN6	Digital I/O 入力信号 6	IN6	I
Digital I/O IN7	Digital I/O 入力信号 7	IN7	I
Digital I/O OUT0	Digital I/O 出力信号 0	OUT0	O
Digital I/O OUT1	Digital I/O 出力信号 1	OUT1	O
Digital I/O OUT2	Digital I/O 出力信号 2	OUT2	O
Digital I/O OUT3	Digital I/O 出力信号 3	OUT3	O
Digital I/O OUT4	Digital I/O 出力信号 4	OUT4	O
Digital I/O OUT5	Digital I/O 出力信号 5	OUT5	O
Digital I/O OUT6	Digital I/O 出力信号 6	OUT6	O
Digital I/O OUT7	Digital I/O 出力信号 7	OUT7	O

※1 : OUT0~7, IN0~7 はスクリプトファイルで指定する Digital 出力/出力のコマンド名になります。

表では Signal Name との対応を示します。

※2 : スクリプトファイル選択用の Bit0~7 の信号になります。

表では Signal Name との対応を示します。

Bit0~7 の選択信号と、スクリプトファイル名の対応表は以下【 スクリプトの実行 】をご参照ください。

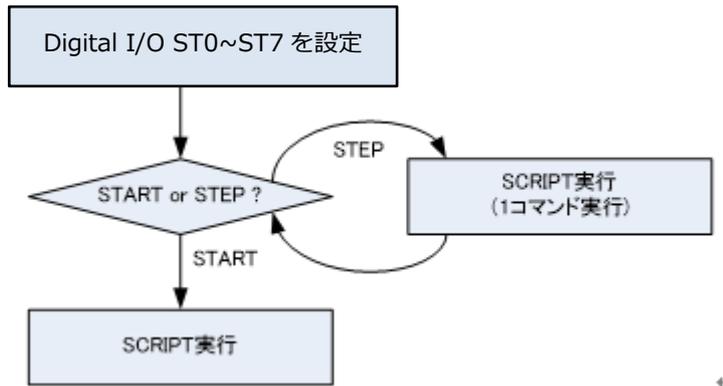
■ スクリプトの実行

スクリプト選択信号によるスクリプト実行は以下のように行います。

1. Digital I/O ST0~ST7 のスクリプト選択信号で、実行するスクリプトファイルの選択を行います。

2. START 信号の出力で、選択したスクリプトファイルが実行されます。

(STEP 信号を出力した場合は、スクリプトファイルに記述されているコマンドを順番に実行します。)



■ スクリプトファイル名

Digital I/O ST0~7 の出力信号と実行するスクリプトファイルの対応は以下の表の通りとなります。

スクリプトファイル名は、固定となります。

スクリプトファイルは SD カードのルートディレクトリ に配置することで、実行可能となります。

XXScript.scp

※1 XX は 00~255 の 256 通りを指定できます。(XX は 2 文字または 3 文字である必要があります)

※2 ファイル名は半角英数字で大文字・小文字の区別に関係なく指定可能です。

ST7	ST6	ST5	ST4	ST3	ST2	ST1	ST0	Script
0	0	0	0	0	0	0	0	00Script.scp
0	0	0	0	0	0	0	1	01Script.scp
0	0	0	0	0	0	1	0	02Script.scp
0	0	0	0	0	0	1	1	03Script.scp
0	0	0	0	0	1	0	0	04Script.scp
.
.
1	1	1	1	1	1	1	1	255Script.scp

6. アンサーバック制御

制御端末より任意のスク립トファイル名を指定し、ファイルが存在するか確認（アンサーバック）を行ってからスク립トを実行します。

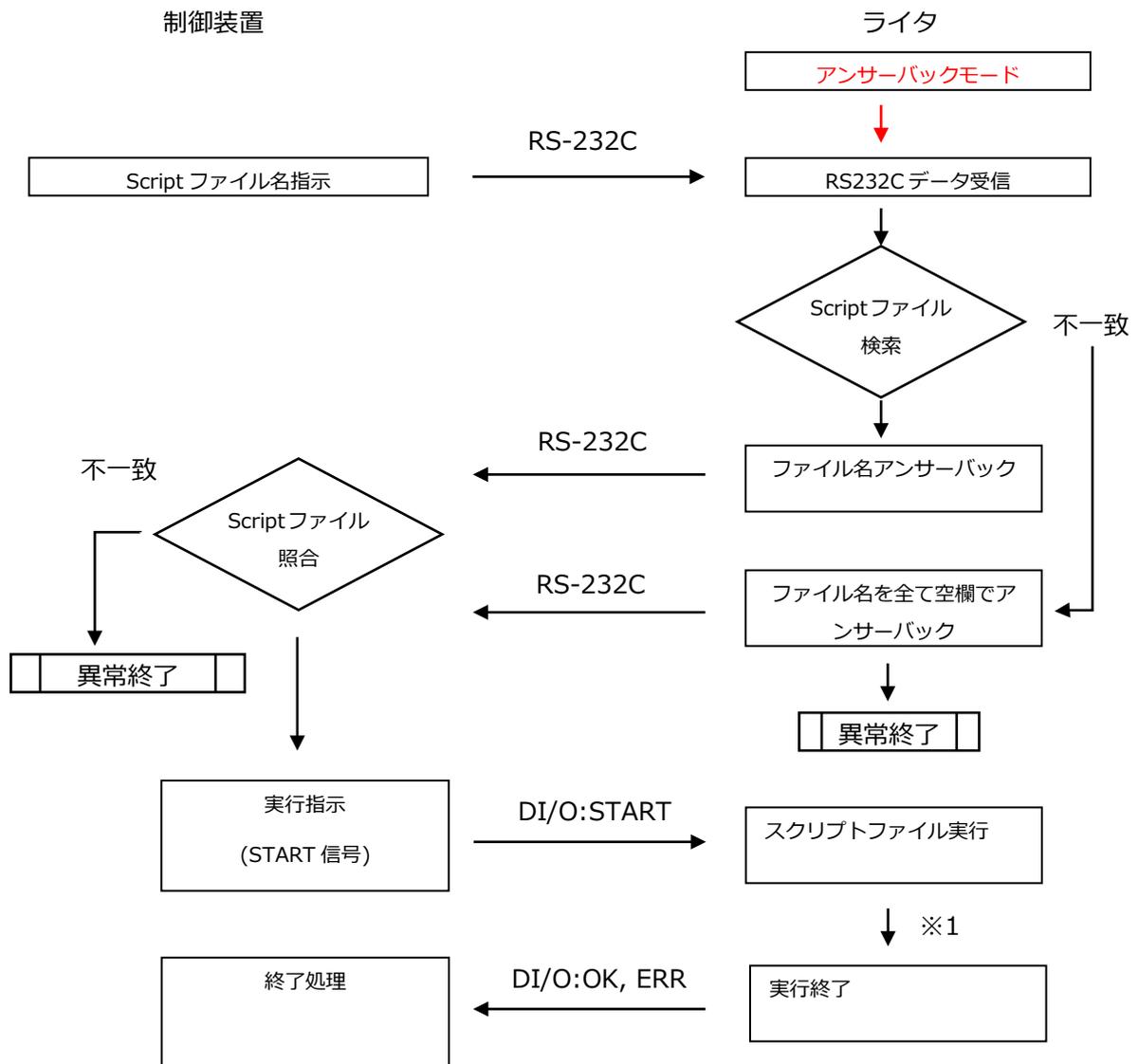
本機能を使用する場合、本機と RS-232C、DI/O の接続が必要になります。また、アンサーバック制御を行う制御装置（PC 等）及び制御ソフトウェアをお客様でご用意いただく必要がございます。

アンサーバック制御を使用する場合、YBO ファイルの[MODE]に ANSWER-BACK と記述します。

以下、アンサーバック制御を使用する場合の YBO ファイルの記述サンプルとなります。制御端末との RS-232C 設定を変更する場合、以下の[RS-232C]設定を変更してください。例ではボーレート 9600bps, パリティ 無し, ストップビット 1bit, データ長 8bit となります。

[M	O	D	E]														
A	N	S	W	E	R	-	B	A	C	K									
[R	S	-	2	3	2	C]											
B	A	U	D	=	9	6	0	0											
B	I	T	=	8															
S	T	O	P	=	1														
P	A	R	T	Y	=	N	O	N	E										
[S	E	T	T	I	N	G]											
[E	N	D]															

6.1. 制御フロー



※ 1 スクリプトファイルで SelectModule を実行した場合、カレントのオブジェクトファイル名を RS-232C 経由で送信します。

本機能はアンサーバックモードで動作をしている場合に実行されます。

7. エラーコード一覧

エラーNo.	エラーメッセージ	内容	対応
1002	NO LICENCE	定義体ライセンスがない	定義体ライセンスの追加が必要です。 “2.8.1.ADD LICENSE”を参照してください。
1003	GROUP CODE ERR	グループコードが違う	定義体にあったパラメータをご使用ください。
1006	COM ID VER UNEXPECTED	本体ファームウェアのバージョンが古い	バージョンが最新か確認してください。
1007	CM ID VER UNEXPECTED ERR	定義体のバージョンが古い	バージョンが最新か確認してください。
1008	FUNCTION NOT SUPPORT	サポートしていないファンクション	指定されたファンクションは実行できません。 本体または定義体のバージョンが最新か確認してください。
1009	DEVICE FUNCTION NOT SUPPORT	サポートしていないデバイスファンクション	指定されたファンクションは実行できません。 本体または定義体のバージョンが最新か確認してください。
1010	HPARAM CONST ERR	ハードウェアパラメータが読み出せない	弊社サポートセンターへご連絡ください。
1011	HPARAM WRITE ERR	ハードウェアパラメータへの書き込みができない	弊社サポートセンターへご連絡ください。
1015	PARAMETER ERR xxxx	ソフトウェアパラメータが壊れている	パラメータが破損しています。パラメータを再度ダウンロードしてください。
1016	ADDRESS WARNING	ライタバッファメモリ領域、デバイスファンクション領域のアドレスがターゲットMCUフラッシュメモリ領域と異なる	Target Address または Buffer Area の領域がフラッシュ書き込み領域の全領域となっているか確認してください。
1017	PROBE LOGIC NO LICENCE	プローブロジックライセンスがない	プローブロジックライセンスの追加が必要です。 “2.8.1.ADD LICENSE”を参照してください。

1020	S FILE FORMAT ERR	S フォーマットエラー	オブジェクトファイルのデータフォーマットが異常です。オブジェクトファイルを確認してください。
1021	HEX FILE FORMAT ERR	HEX フォーマットエラー	オブジェクトファイルのデータフォーマットが異常です。オブジェクトファイルを確認してください。
1022	FORMAT ERR (REC TYPE)	レコードタイプエラー	オブジェクトファイルのデータフォーマットが異常です。オブジェクトファイルを確認してください。
1023	FORMAT ERR (ADDRESS)	アドレスフィールドエラー	オブジェクトファイルのデータフォーマットが異常です。オブジェクトファイルを確認してください。
1024	FORMAT ERR (CHECK SUM)	チェックサムエラー	オブジェクトファイルのデータフォーマットが異常です。オブジェクトファイルを確認してください。
1025	FORMAT ERR (CRLF)	改行コードエラー	オブジェクトファイルのデータフォーマットが異常です。オブジェクトファイルを確認してください。
1026	FORMAT ERR (SIZE)	レコードサイズエラー	オブジェクトファイルのデータフォーマットが異常です。オブジェクトファイルを確認してください。
1027	FORMAT ERR (S5)	S5 レコードチェックエラー	オブジェクトファイルのデータフォーマットが異常です。オブジェクトファイルを確認してください。
1028	FORMAT ERR (ASCII)	バイナリ変換できないデータエラー	オブジェクトファイルのデータフォーマットが異常です。オブジェクトファイルを確認してください。
1029	DATA FORMAT ERR	通信データフォーマットエラー	通信異常が発生した為、通信経路を確認してください。
102A	CM FORMAT ERR	CM ファイルフォーマットエラー	定義体が破損している恐れがあります。定義体を再度ダウンロードしてください。
102B	ADDRESS WARNING	バッファメモリ領域のアドレス設定異常	オブジェクトファイルで領域外のアドレスを含むデータが入っていないか確認してください。
102C	FILE NAME SIZE OVER	ファイル名が長すぎる	ファイル名は 250 文字以下に設定してください。
102D	RAM FILE SIZE OVER	RAM ファイルのデータサイズが大きすぎる	ダウンロードしたファイルが 256kbyte(※)以下であることを確認してください。 ※ ファームウェアが Ver17.20 以下の場合は 8kbyte

1037	UPDATE ERR	ファーム、FPGA のアップデートに失敗	FWK, HWPファイルがSDカードのルートにある場合は削除してから再度実行してください。
1038	UNSUPPORTED	PHX4xx のアップデートに対応していない	本体 FPGA を Ver28.50 以上にしてください
1039	PHX UPDATE ERR	PHX4xx のファームウェアアップデートエラー	アップデートを再実行してください。
1052	SD READ ERROR	SD カードの読出しエラー	SD カードをフォーマットしてください。 本体 FPGA のバージョンを Ver28.42 以上にしてください
1053	SD WRITE ERROR	SD カードへの書き込みエラー	SD カードをフォーマットしてください。 本体 FPGA のバージョンを Ver28.42 以上にしてください
1054	SD ACCESS ERROR	SD カードへのアクセスエラー	SD カードをフォーマットしてください。 本体 FPGA のバージョンを Ver28.42 以上にしてください
1066	FULL PATH ERR	ファイルアクセス異常	アクセスしようとしたファイルはファイル破損しています。SD カードをフォーマットするか、指定のファイルを削除してください。
1067	PATH LENGTH ERR	ファイル名が長すぎる	ファイル名は 250 文字以下に設定してください。
106B	FILE OPEN ERR	指定したファイルのオープンエラー	アクセスしようとしたファイルはファイル破損しています。SD カードをフォーマットするか、指定のファイルを削除してください。
106C	FILE NOT OPEN ERR	指定したファイルが見つからない	アクセスしようとしたファイルはファイル破損しています。SD カードをフォーマットするか、指定のファイルを削除してください。
106D	DOS FILE SIZE ERR	ファイルサイズ異常	アクセスしようとしたファイルはファイル破損しています。SD カードをフォーマットするか、指定のファイルを削除してください。
1070	FILE READ ONLY ERR	リードオンリーのファイルヘライトアクセスしました	ファイル指定を変更するか、指定されたファイルのファイル属性を変更してください。
1071	FILE NOT EXIST	ファイルが見つからない	指定されたファイルが見つからない為にエラー出力しています。ファイル指定を変更するか、指定されたファイルを格納してください。

1072	FILE NOT EXIST	ファイルが見つからない	指定されたファイルが見つからない為にエラー出力しています。ファイル指定を変更するか、指定されたファイルを格納してください。
1073	FILE EXIST	既にファイルが存在する	指定されたファイルは既に存在する為にエラー出力しています。ファイル指定を変更するか、指定されたファイルを削除してください。
1074	FOLDER NOT EXIST	フォルダが見つからない	指定されたフォルダが見つからない為にエラー出力しています。フォルダ指定を変更するか、指定されたフォルダを格納してください。
1075	FOLDER EXIST	既にフォルダが存在する	指定されたフォルダは既に存在する為にエラー出力しています。フォルダ指定を変更するか、指定されたフォルダを削除してください。
1076	FILE ENCRYPT ERR	ファイルの暗号化失敗	指定したファイルの暗号化に失敗しました。YIM フォルダを作成からやり直してください。
1077	FILE COMPOSITE ERR	ファイルの複合化失敗	指定したファイルの復号化に失敗しました。再実行するか、YIM フォルダの作成からやりなおしてください。
1078	ENCRYPT SIZE OVER	暗号化するファイルサイズが大きい	ファイルサイズは 16Mbyte 未満にしてください。
1079	ENCRYPT FILE OPEN ERR	暗号化したファイルが開けない	指定した暗号化ファイルはファイル破損しています。YIM フォルダを作成からやり直してください。
107A	OBJ FILE NOT SAVE	オブジェクトファイルへアクセスできない	指定のオブジェクトファイルは読み出せません。
1090	YSM CHECK ERR	YSM チェックサムエラー	YSM のサムデータ、バッファのサム値を確認してください。
1091	YSM CHECK ERR	YSM チェックバッファエラー	YSM のバッファデータ、バッファのデータ確認をしてください。
1092	YSM FILE FORMAT ERR	YSM ファイルフォーマットエラー	YSM ファイルフォーマットを確認してください。
1093	YSM NOT FOUND	YSM ファイルが見つかりません	YSM ファイルを YIM フォルダ内へ置いてください。
10A0	ETHER SEND CUT ERR	ETHER 送信時に回線切断	ETHER の接続環境を確認してください。

10A1	ETHER SEND TIMEOUT	ETHER 送信時にタイムアウト	ETHER の接続環境を確認してください。
10A2	ETHER RECV CUT ERR	ETHER 受信時に回線切断	ETHER の接続環境を確認してください。
10A3	ETHER RECV TIMEOUT	ETHER 受信時にタイムアウト	ETHER の接続環境を確認してください。
10A4	ETHER ERR	ETHER 通信ができない状態にある	ETHER の接続環境を確認してください。
10A5	NEXT COMMAND NOT RECV	ETHER 通信に異常	ETHER の接続環境を確認してください。
10B0	COM OUT ERR	RS232C 送信エラー	RS232C または バーコードリーダとの接続を確認してください。
10B1	COM IN ERR	RS232C 受信エラー	RS232C または バーコードリーダとの接続を確認してください。
10C0	DEVICE SEND TIMEOUT xx	ターゲット通信送信タイムアウト	ターゲットとの通信エラーが発生しました。ターゲットとの接続、パラメータ設定を確認してください。
10C1	DEVICE RECV TIMEOUT xx	ターゲット通信受信タイムアウト	ターゲットとの通信エラーが発生しました。ターゲットとの接続、パラメータ設定を確認してください。
10C2	DEVICE OVERRUN ERR xx	ターゲット通信受信オーバーラン	ターゲットとの通信エラーが発生しました。ターゲットとの接続、パラメータ設定を確認してください。
10C3	DEVICE FRAMOUTG ERR xx	ターゲット通信フレミングエラー	ターゲットとの通信エラーが発生しました。ターゲットとの接続、パラメータ設定を確認してください。
10C4	DEVICE PARITY ERR xx	ターゲット通信パリティエラー	ターゲットとの通信エラーが発生しました。ターゲットとの接続、パラメータ設定を確認してください。
10D0	CSB NOT FOUND	CSB ファイルが見つからない	CSB ファイルを格納してください。
10D1	MORE 2 CSB FILES	CSB ファイルが 2 つ以上存在する	CSB ファイルを削除し、1 つにしてください。

10D2	CSB FILE FORMAT ERR xxxx	CSB ファイルフォーマットエラー	CSB ファイルフォーマットを確認してください。
10D3	FUNCTION DATA ERR	CSB、YMN ファンクションパラメータエラー	CSB、YMN のファンクションパラメータを確認してください。
10D4	YMN FILE FORMAT ERR	YMN ファイルフォーマットエラー	YMN ファイルのフォーマットを確認してください。
10D5	YMN NOT REGIST	YMN ファイルが登録されていない	YMN ファイルが格納されているか、YMN ファイル名が正しいか確認してください。
10E2	BAUDRATE SET ERR	設定可能なボーレートが無い	パラメータファイルが正しいかご確認ください。
10E3	PROBE NOT CONNECT	プローブが正常に接続できていない	本体の電源を切って、プローブの接続を確認してください
1100	DEVICE CLEN ERR	過電流検出	ターゲットとショートしている可能性がありますので、ターゲットとの接続を確認してください。
1101	TVCC TOO LOW	ターゲット電圧が低い	TVCC にターゲット電源を接続する必要があります。ターゲットマイコンへの入力電圧が正しいか確認してください。
1108	DEVICE INITIALIZE COM ERR	ターゲットとの初期通信でエラー	対象のマイコンパック及び接続信号を確認し、ターゲットとの接続を確認してください。
1109	DEVICE ERR xx	デバイスファンクション実行中のエラー	<p>ターゲットのデバイスへのアクセスが可能か、セキュリティ等でアクセス不可となっていないか確認してください。</p> <p>xx(※)はデバイスファンクションの実行箇所を示します。</p> <p>0x01 : 消去処理実行エラー 0x02 : ブランクチェックエラー 0x03 : 書き込み処理実行エラー 0x04 : ベリファイエラー 0x05 : コピー処理エラー</p> <p>※ 定義体によっては上記と異なる場合もございます。定義体のマニュアルを確認してください。</p>
110A	DEVICE SCI SUM ERR xx	SCI 通信サムエラー	対象のマイコンパック及び接続信号を確認し、ターゲットとの接続を確認してください。

110B	DEVICE ILLEGAL REPLY xx	SCI 通信で予期しないデータを受信	対象のマイコンパック及び接続信号を確認し、ターゲットとの接続を確認してください。
110C	SUM VERIFY ERR xx	サムベリファイエラー	対象のマイコンパック及び接続信号を確認し、ターゲットとの接続を確認してください。
110E	BTP NOT FOUND	BTP ファイルが見つからない	BTP ファイルを格納してください。
110F	MORE 2 BTP FILES	BTP ファイルが 2 つ以上存在する	BTP を削除し、BTP を 1 つにしてください。
1110	BTP FORMAT ERR	BTP ファイルフォーマットエラー	BTP ファイルフォーマットを確認してください。
1111	KEY NOT FOUND	KEY ファイルが見つからない	KEY ファイルを格納してください。
1112	MORE 2 KEY FILES	KEY ファイルが 2 つ以上存在する	KEY を削除し、KEY を 1 つにしてください。
1113	KEY FORMAT ERR	KEY ファイルフォーマットエラー	KEY ファイルフォーマットを確認してください。
1120- 113F	xxxxx	定義体の固有コードのエラー	エラーの内容は定義体ごとに異なります。 詳細は定義体のマニュアルを確認してください。
1140	PHX400 ADAPTER CONNECT ERR	本機と PHX400 との通信中のエラー	本機と PHX400 との接続をご確認ください。 TVCC にターゲット電源を接続する必要があります。ターゲットマイコンへの入力電圧が正しいか確認してください。
1141	PHX400 UART COM ERR	本機と PHX400 との通信中のエラー	本機と PHX400 との接続をご確認ください。
1150	YIM MAX	YIM フォルダ数が上限値(65535)に達している	SD カード内から不要な YIM フォルダを除いてください。
1151	YIM PROTECTED	YIM フォルダにプロテクトがかかっている	プロテクトを解除してください

1160	YLC NOT FOUND	YLC ファイルが見つからない	YLC ファイルを格納してください。
1161	MORE 2 YLC FILES	YLC ファイルが 2 つ以上存在する	YLC を削除し、YLC を 1 つにしてください。
1162	YLC FORMAT ERR	YLC ファイルフォーマットエラー	YLC ファイルフォーマットを確認してください。
1163	ATTOM ERR	ETHER 通信異常	本機と PC の通信が切断または通信不可の状態となっています。 ETHER 接続の状態を確認してください。
1164	LICENSE 100 OVER	ライセンスの登録数が上限値に達している	弊社サポートセンターへご連絡ください。
1170	YCM FORMAT ERR/	YCM ファイルフォーマットエラー	YCM ファイルフォーマットを確認してください。
1170	FILE SIZEGET ERR	YCM ファイルフォーマットエラー	YCM ファイルフォーマットを確認してください。
1180	YIM NOT REGIST	YIM 未定義エラー	YIM フォルダを設定してください。
1181	CM NOT REGIST	定義体未定義エラー	定義体をダウンロードしてください。
1182	BUF NOT REGIST	バッファメモリ未定義エラー	SD カード領域の空き領域サイズを十分に確保しライター起動してください。
1190	FILE OPEN ERR	ファイルオープンエラー	ファイルのアクセスの異常を検知しました。指定のファイルが破損している可能性がありますので、ファイルを消去してから再ロードしてください。
1191	FILE CLOSE ERR	ファイルクローズエラー	
1192	FILE READ ERR	ファイルリードエラー	
1193	FILE WRITE ERR	ファイルライトエラー	

1194	FILE SEEK ERR	ファイルシークエラー	
1195	FILE SYNC ERR	ファイル同期エラー	
1196	FILE RENAME ERR	ファイルリネームエラー	
1197	FILE DIR ERR	ディレクトリオープンエラー	
1198	FILE SEARCH ERR	ファイルサーチエラー	
1199	FILE CD ERR	チェンジディレクトリエラー	
119A	FILE MKFILE ERR	ファイル作成エラー	
119B	FILE MKDIR ERR	ディレクトリ作成エラー	
119C	FILE RMFILE ERR	ファイル消去エラー	
119D	FILE RMDIR ERR	ディレクトリ消去エラー	
119E	FILE COPY ERR	ファイルコピーエラー	
119F	FILE XCOPY ERR	ディレクトリコピーエラー	
1200	DEVICE FUNCTION ERR	デバイスファンクション中断	
1A00	SCRIPT FILE NOT (START)	スクリプトファイルチェックエラー： 実行しようとしたスクリプトファイル に(START)の行がない	実行したスクリプトファイルを確認してください。

1A01	SCRIPT FILE ERR LOUTE XXXX	スクリプトファイルチェックエラー： 実行しようとしたスクリプトファイル の XXXX 行に仕様外の記述がある	実行したスクリプトファイルを確認してください。
1A02	SCRIPT FILE FORMAT ERR	スクリプトファイルチェックエラー： 実行しようとしたスクリプトファイル に(END)の行がない	実行したスクリプトファイルを確認してください。
1A03	SCRIPT EMPTY	スクリプトファイルチェックエラー： 実行しようとしたスクリプトファイル に(START)~(END)までに実行するコマンドない	実行したスクリプトファイルを確認してください。
1A04	SCRIPT DI TIMEOUT	スクリプトファイル実行中エラー：ス クリプトの OUTPUT の行にあるタイ ムアウト時間内に指定した出力信号の ON/OFF が検知できない	エラーが発生したスクリプトファイルの行と、お客様の 環境の両方を確認してください。
1A05	SCRIPT FILE NOT FOUND	スクリプトファイル検索エラー：パー コード、または Digital 出力で指定した スクリプトファイルが見つからない	対象とするスクリプトファイルと、バーコードまたは Digital 出力で指定した情報が一致しているか確認して ください。
1A06	DIO CLEN ERR	Digital I/O 出力時に過電流を検出しま した	ライタの Digital I/O と接続しているお客様の DI/O ユニ ットの結線を確認してください。
1A10	RTC DATA FORMAT ERR	NETIMPRESS avant 内蔵の RTC への 設定で異常な設定値を検知しました	設定した値が仕様範囲内の時間であることを確認して ください
1A14	LOG FILE OVER	ログファイル数が保存可能上限値に達 している	ログファイルを消去してください
1A16	LOG FILE NOT OPEN ERR	ログファイルが開けない	指定のログファイルがファイル破損している可能性があ ります。指定のログファイルを消去してください。
1A19	YRM FILE OVER	YRM ファイルが保存可能上限値に達し ている	別の YIM フォルダを選択して、YRM ファイルをクリア してください。
1A20	BCR RECV TIMEOUT	バーコード受信中にタイムアウトが発 生	バーコードリーダーの SUFFIX の設定が正しく行えている ことを確認してください。YBO ファイルで SUFFIX を指 定している場合は、SUFFIX に指定した文字及びお客様の のバーコードデータを確認してください。
1A21	BCR DATA FORMAT ERR	バーコードデータのフォーマットが異 常	お客様で作成されたバーコードデータを確認してくださ い。また、バーコードオプションファイル (YBO) の指 定が間違いないか確認してください。

1A23	BCR YBOFILE_FORMAT_ERR	バーコードオプションファイル(YBO)のフォーマットエラー	YBO ファイルを確認してください。
1A24	MORE 2 YBO FILES	バーコードオプションファイル(YBO)が 2 個以上あります	YBO ファイルは SD カードのルートに一つだけ置くようにしてください。
1A25	BCR RECV OVER	バーコードデータの受信データバッファオーバーエラー	バーコードデータは 2048byte 以下で指定してください。
1A27	BCR CLEN ERR	バーコード接続 過電流エラー	接続されている機器の状態を確認してください。
1A28	YBO FILE MODE ERR	YBO のモード設定が正しくない	YBO ファイルの内容を確認してください。
1A29	BCR ILLEGAL DATA (1:NULL)	受信したバーコードの解析中のエラー	お客様で作成されたバーコードデータをご確認ください。また、バーコードオプションファイル (YBO) の指定が間違いないか確認してください。
1A2A	BCR ILLEGAL DATA (START-SUFFIX)	START~バーコード終端までが 249 以上あるので、ファイル検索できない	バーコードデータを確認してください
1A2B	BCR ILLEGAL DATA(START)	バーコードが START まで文字数がない	バーコードデータを確認してください
1A2B	BCR ILLEGAL DATA(END)	バーコードが END まで文字数がない	バーコードデータを確認してください
1A2C	BCR ILLEGAL DATA(SUFFIX)	バーコードが 249 文字以上あるので、ファイルを検索できない	バーコードデータを確認してください
1A30	PROBE CONNECT ERR	プローブ (PHX4xx) 接続エラー	本機と PHX4xx の接続を確認してください
1A31	PROBE UNCONNECT CH1	プローブ (PHX4xx) 接続エラー	“PROBE SELECT”信号と本機への PHX4xx の接続が一致しているか確認してください。
1A32	PROBE UNCONNECT CH2	プローブ (PHX4xx) 接続エラー	“PROBE SELECT”信号と本機への PHX4xx の接続が一致しているか確認してください。
1A33	PROBE SELECT NO SIGNAL	プローブ (PHX4xx) 接続エラー	本機と PHX4xx の接続を確認してください

8. お問い合わせ先

本機の仕様および応用に関するお問い合わせはサポートセンターにて承っております。なお価格や納期などの販売に関する内容については、最寄りの営業、代理店にお問い合わせください。

お問い合わせ先

NETIMPRESS サポートセンター

E-mail : support-impress@dts-insight.co.jp

住所 : 〒151-0053 東京都渋谷区代々木 4-30-3 新宿 MIDWEST ビル 7F



NETIMPRESS avant 操作マニュアル

株式会社D T Sインサイト

URL : https://www.dts-insight.co.jp/support/support_netimpress_avac/

2022年12月29日 第6版発行